

浅草米蔵について

——「浅草米蔵旧例」の紹介——

大 野 瑞 男

江戸幕府財政において、年貢米の収納と旗本御家人ら幕臣団の俸禄支給など米穀出納機能の中核に位置するものが幕府の米蔵であり、その最大なのは江戸浅草の米蔵であった。

慶長期における江戸城外廓所在の代官奉行預蔵体制に代って、浅草米蔵は元和六年に創設された。計画は樽屋藤左衛門の設計にかかり、隅田川の右岸で湾入している部分に、その傍らに聳え立つ鳥越丘を崩して埋め立てることとし、その人足は千束池や姫が池の埋立てを行なった鳥越人をして施工せしめた。石垣を築き土留めとし、船入りのため八本の堀割を設け、これを北より一番堀から八番堀と名付けた。⁽¹⁾堀には八か所の水門が築かれそれぞれ番所が置かれた。西側（町屋側、いわゆる蔵前側）には北から上・中・下の門が設けられ、これにも番所が置かれた。

浅草米蔵の規模は、一橋大学附属図書館所蔵の文化十三年写「御蔵之始末」によれば、坪数三万六六四八坪三合、上東の角より北の角まで五八間、下南の角より西の角まで一三一間、町通り三〇六間、大川通り三四四間、棟数は天明年中までは五一棟二五八戸前、寛政年中明地に建て添え、五四棟二七〇戸前となった。⁽²⁾また弘化の建て増しによって六七棟三五四戸前に増加した。

浅草米蔵に付属する米蔵として本所米蔵がある。享保十八年四月十八日より地形にかかり、翌十九年冬に完成、元

文元年より買米を入れて使用開始された。棟数一二棟八八戸前であったが、寛政年中一五〇戸前に増築された。⁽³⁾

後述の「浅草米廩旧例」によれば、梁までいっばいに詰めるとすれば、一戸前梁間五間桁行七間の蔵で平均一四〇〇石、梁間五間桁行六間平均一二〇〇石、梁間五間桁行五間平均一一〇〇石となる。一戸前を仮に一二〇〇石平均とすれば、浅草米蔵で二五八戸前なら約三一万石、二七〇戸前で三二万石余、三五四戸前で四二万石余となる。また本所米蔵では、八八戸前で約一〇万五千石、一五〇戸前で一八万石となる。弘化以降では両蔵で約六〇万石となるが、実際には梁まで満積することではなく、五〇万石ていどが詰米容量であらう。弘化四年閏四月二十九日の在高が、米三万七千五百六十八石二斗八升八合であり、毎年ほぼ四〇万石余ずつが動くといてよいであらう。⁽⁴⁾

浅草：本所以外の江戸の米蔵には、北の丸・代官町・和田倉・谷の蔵（矢倉）・雉子橋・鉄炮洲・竹橋・浜などにあったが、竹橋・浜の米蔵以外は元禄ごろを中心に解体され、浅草・本所に集中されたのである。⁽⁵⁾

浅草米蔵役人は本所米蔵も管轄した。勘定奉行支配下の御蔵奉行の下に、御蔵手代・助手代などの手代、御門番、御蔵番、小揚頭・杖突・平小揚などの小揚が所属し、三季切米渡方など米穀支出を掌る。

御蔵奉行は寛永十三年五月一日始めて三人が置かれ、同十九年五月二十六日六人、同八月十八日大御番小十人より二人、寛文五年二月十三日八人、延宝二年一〇人と変動した。貞享四年十月初めて御勘定から五人が命ぜられ、享保九年八人、元文四年十月二十二日一〇人、同六年一〇人、同七年十一月二人、寛政三年一〇人、文化九年四月四日九人と人員が増減した。⁽⁶⁾ 御蔵奉行創置以来貞享四年までは大御番の出役であったことは、米蔵の本来の機能は兵糧の貯蔵であり、従って軍事的性格が強いことを意味し、当然番方が支配管轄するところであった。貞享以後は役方が進出し、財政経済的性格が濃くなる。

御蔵手代は寛文五年始めて二四人が置かれ、同九年三二人、延宝二年四八人、同九年三二人、延宝二年四八人、貞

享四年五六人、元禄三年三四人、宝永二年五四人となった。御蔵手代組頭は元禄二年始めて四人、宝暦四年七人と増えたが、いずれも手代定員の中である。助手代は享保十年始めて五人を置き、同十六年一〇人、元文五年一九人、宝暦十三年二一人と増員された。また文政四年に手代見習六人が置かれた。手代の分課は、浅草米蔵旧例によると、御蔵借・書上掛・小買物掛・御普請方掛・御膳米掛・御勘定懸・御廻米掛・手本米掛・手形掛となっている。

御蔵御門番同心は享保十年始めて一五人が置かれ、明和三年十二月十四日新規に頭取三人が命ぜられた。同心は寛政三年九月に二人増し一七人となった。文化五年同心見習二人が置かれ、天保十年四人に増えた。

御蔵番は前々より一〇人が置かれていたが元禄十一年一三人、同十六年一七人、享保二年二三人と増員、同十九年三人増えてのち一人減り二五人、明和五年三〇人となった。

御蔵小揚は、寛文五年に小揚頭一〇人・杖突二〇人・平小揚二八〇人で合計三一〇人、延宝八年は計三二〇人、元禄二年は計二五〇人、寛政二年は小揚頭一八人・杖突二七人・平小揚一九九人、計二四四人となった。

浅草米蔵役人にはほかに御切米手形改(書替奉行)があり、勘定奉行の支配下に切米手形案文の押切割印検査を行なった。寛永十九年八月十八日始めて二人が置かれ、一人は定役、一人は大御番出役で役料二〇〇俵、所属の手代は九人であるが、延宝二年一〇人、宝永二年六人宛二人、正徳四年九人宛一人となった。

さて、浅草米蔵に関して研究を行おうとする場合、蔵米支給を受ける旗本御家人の代理請取売払業者である札差側の記録には、『札差事略』(一橋大学札差事略刊行会編)、『業要集』(三田村鳶魚校訂『未刊随筆百種』第七)など、一橋大学附属図書館・国立国会図書館を中心に優れた札差文書があり、札差の研究も進展をみている。⁽⁷⁾

しかし、年貢米を収納し蔵米を支給する側の浅草米蔵関係史料は極めて少ない。たまたま三重県伊勢市の神宮文庫に「浅草米蔵旧例」と題する一冊の史料があり、『古事類苑』に使用されている以外は利用されていないが、浅草米

蔵の機能を知る上で良質な史料であり、新たな事実も判るのでここに紹介することとした。内題は「御蔵旧例書」とあり、写本である。原本は発見されていないが恐らく上下二巻であり、写本の質は必らずしも最良ではなく、誤写もある。蔵書印等から推測すれば、内藤耻叟の収集所蔵にかかるとを、『古事類苑』編纂のさい編纂事務所に移され、編纂終了後に神宮文庫に寄贈されたものの一冊であろう。

成立は、内容記事からいって文政十年十二月以後であるが、最後の一丁は異筆であって天保三年以降の書き足しである。すべて八八項目の記事から成り、目次が付いていて、目次・本文とも和数字で朱書番号が記されているが、番号の誤まり、脱落が多いので、この紹介に当たってはこれを上にアラビア数字に代えて記し、検索しやすくした。また必要に応じて補った文字は（ ）を施した。

19の御米位附は、文政十年二月御蔵米定付と同様であるのでこの年の記事と思われるが、播州の下と左、勢州の下、相州の左の小文字とともに武州の地名であり、原本が三段に記したものを四段に写したための齟齬であると思われる。

浅草米蔵の納渡に関する研究は、管見の範囲では、高木丘山「幕府廩米支給手続」⁽⁹⁾、幸田成友「札差雑考、其二、札差の業務経営・帳簿・証文雛形」⁽¹⁰⁾があり、「札差事略」附録一に少量の記事があるのみである。従って「浅草米蔵旧例」は十分利用価値があるが、中でも73御切米渡方手続仕法や、72手代懸り取扱之覚はまず参照すべきものである。

本稿は史料紹介を主とし、浅草米蔵の機能に関する研究は、「札差事略」その他との比較検討の上で後日を期したことを了解されたい。

最後に史料閲覧の便宜を与えてくださった神宮文庫に謝意を表する。

注

町人の研究」第一卷)など。

(1) 石津三次郎「浅草蔵前史」一三九—一四〇頁

(8) 三田村「札差考」(第六卷二四四—二四五頁)

(2) 三田村鳶魚「札差考」(「三田村鳶魚全集」第六卷二四三頁)

(9) 「江戸会誌」一一一
(10) 註(7)参照

(3) 「御蔵之始末」

(11) 同書下五六七—五七五頁

(4) 三田村前掲稿(第六卷二四四頁)

(5) 拙稿「江戸幕府財政の成立」(近刊、北島正元編「幕藩制国家成立過程の研究」所収)参照。

(6) 「吏徴別録」下。以下役人の創置、人員増減は同史料による。

(7) 幸田成友「札差」(「三田学会雑誌」二二—二・二三)

同「札差雑考、其一、札差の人名及び株数」(「史学」七一

一)、「其二、札差の業務経営・帳簿・証文雛形」(「史学」

七二)、「其三、札差関係書類」(「商学研究」八一)。

いずれも「幸田成友著作集」第一巻に収録。三田村鳶魚

「札差考」(「三田村鳶魚全集」第六卷)。北原進「安永年

間における札差株仲間干渉」(「歴史教育」七一)。

同「札差に対する幕府の資金貸下について」(「立正史学」二

四)。

同「札差株仲間の類似商排斥について」(「立正史学

三五周年論文集)。

同「札差株仲間の成立」(「歴史教育」九一—一〇)。

同「近世中期における江戸浅草御蔵米仲買その他について」(「経済学季報」二二—二合併号)。

同「宝暦—天明期の江戸商業と札差」(西山松之助編「江戸

浅草米蔵について (大野)

〔史料紹介〕

〔表紙〕

「浅 艸 米 廩 旧 例」 (神宮文庫所蔵)

御蔵旧例書 (目次)

(上巻)

- 1 御蔵勤方之儀ニ付御書付写
- 2 御蔵御取締之儀并御蔵番住居等申渡
- 3 納払勤方等之儀申渡
- 4 納払仕方申合
- 5 国々合米之覚
- 6 月々渡方凡石数之事
- 7 御蔵有高其外書上ヶ所書之事
- 8 仙台米御買上納仕法之事
- 9 御蔵直段^(定印之)唱へ候もの之事
- 10 遠国奉行渡米書替所江間合之事
- 11 御詰替米減石之事、附米渡廻し之事
- 12 浅草御蔵御門開閉之事
- 13 本所烏帽子堀之事
- 14 御積込口国々之事

- 15 御蔵詰米凡積之事
- 16 浅草御蔵惣地坪其外建物坪数尺寸之事
- 17 本所御蔵右同断之事
- 18 浜御蔵棟数粗有高之事
- 19 御年貢米俵入位付之事
- 20 御米渡方位付之事、附俵廻之事
- 21 諸渡方内評議之事
- 22 上野芝江附送直段之事
- 23 大御番交代延御扶持方渡之事
- 24 遠国御役人取越米之事
- 25 御役人御足高御借米中渡之事
- 26 遠国御用之もの無差札之事
- 27 玉落以後病死断方之事
- 28 御賄御用米俵手形之事
- 29 御蔵直渡もの之事
- 30 諸向渡米裏判之事
- 31 諸渡方米一ヶ年凡積之事
- 32 御切米冬斗請取候もの名前之事
- 33 高懸り御扶持方之事
- 34 御切米札数之事
- 35 書替三季五段手形之事
- 36 三季御借米御切米渡方二条大坂在番衆渡方之事
- 37 納払小揚兼役賃米之事

- 38 手代小揚等役扶持手形引替定之事
- 39 弘米之節小揚人割并再役倭作人割之事
- 40 札差共御門出入差留候御定之事
- 41 米問屋町名之事
- 42 毎月御扶持渡日并御金渡日、旦式日立会内寄合定日之事
- 43 御藏役所油受取方之事
- 44 (一) 諸納方之分
- 45 御年貢代御藏出米納方法定法之事
- 46 同町米納方法并合米之事
- 47 一切替不成浦証文、附見分仕法之事
- (下卷)
- 48 御藏出米御買上納定法之事
- 49 一町米御買上納定法之事大豆菜種 荒稗同断之事
- 50 御買上太餅米大豆納定法之事
- 51 駿州清水御詰米一ツ橋送納米納方之事
- 52 水戸殿御返納米納方法定法之事
- 53 松平豊後守返納米同断之事
- 54 城詰米納方法定法之事
- 55 納米人割之事
- 56 日雇入候節人数割之定法之事
- 57 御膳粗納人割定法之事
- 58 納米人数割方之事

浅草米蔵について (大野)

- 59 米方御用達并御廻米御用達名前之事
- 60 内拵人足定法之事
- 61 同切替人足之事
- 62 納宿の差出候眞加金之事
- 63 同断御益人足之事
- 64 納方下代并人足頭之事、附納人下宿之事
- 65 諸国欠米之事
- 66 御廻米期月之事
- 67 拵千木定直段并御藏小買物直段定法之事
- 68 御藏御普請方諸職人請負人名前之事
- 69 御藏奉行支配向身分之儀ニ付御礼申上候定之事
- 70 御藏手代其外定人数御給金御扶持之事
- 71 小揚之者諸懸被下扶持定法之事
- 72 手代懸り、取扱之事
- 73 御切米渡方手続之事
- 74 納米一式入用之事
- 75 五分一廻し之事
- 76 御藏小買物御定金之事
- 77 御藏有錢之事
- 78 御上洛御扶持方之事
- 79 金銀目方之事
- 80 三季五段渡方凡積之事
- 81 老年凡渡方之事

- 82 一 御廻米水揚より御蔵納迄諸入用之事
- 83 一 御廻米船中容赦米之事
- 84 一 猿棄扶持作事飯米渡方元濟之事
- 85 一 毎月定扶持渡玉場石数日割之事
- 86 一 浅草御蔵御門外新規御役宅式ヶ所出来御入用之事
- 87 一 御廻米品川沖の御蔵入堀迄茶船壹艘賃銀之事
- 88 一 文政十亥年調進來壹ヶ年大凡渡方之事

(上卷)

1

明和四亥年十月松平右近將監殿被仰渡候御書付写

御蔵奉行江申渡

- 一 諸国御年貢納并御扶持渡等出役年月朝五半時急度場所取懸候様可致事
- 一 極暑之節納は明六時罷出、場所宜候ハ、早速納取懸、御米江暑気合不申内納仕舞候様可致候事
- 一 御扶持渡之儀、極暑之節ハ朝五時ハ相渡候様可致事
- 一 惣舂納米五千俵ハ一手ニ致相納候様可致事
- 一 納米多分有之節は朝五時ハ納取懸候様いたし、内拵昼時頃迄出来之分ハ再役致候而も納候様可致候事
- 一 納米俵数少キ節は諸渡出役之序ニ納候様可致事
- 一 月番之御蔵奉行終日役所ニ罷出御用向取扱、折々御蔵庭見廻

り候様可致事

一 三季御切米之節、御金渡之儀随分手廻いたし晚景ニ不成様可致候事

一 納米御蔵詰方之儀米持拵之為ニ候様猥成詰方無之様可致候事

一 諸渡方之節、其御蔵片付掃除等申付ヘキ事

一 御廻米御蔵庭江水揚致拵立候節乱雑無之様可致候事

一 沢手米廿半俵等拵外江乱ニ不取散様可為致候事

一 右拵立撰方等不片付内は狼に休足等不為致、御蔵番并拵方之者江可申付事

一 御廻米御蔵庭江揚候節、船不足俵等有之哉念入相改候様御蔵番并拵方之者江可申付候事

一 水揚井内拵且引取米等有之場所、御蔵手代組頭繁々見廻候様可申付候事

一 御廻米御蔵庭江揚切候ハ、早速空船入堀外江乘出水門へ可申候事

但、水主雇船ニ而帰候ハ、御蔵役所前入堀ハ帰候様可為致候事

一 御蔵入堀水門之儀御用無之水門明申間敷候、御用ニ付明候而も早速へ置可申候事

一 御蔵入堀渡之儀無怠慢候様申付、尤納払等無之堀ニ見斗為浚候様可致候事

一 水揚米江懸候告蒞御蔵役所前ハ引取候様可致候事

一 納払ニ差出候人足前乗為致間敷事

一御年貢米納手本米之儀、其年ニ出来米手本ニ差出候事ニ候之間、御代官御預所江申渡急度遂吟味差出管候間其旨心得差斗可申事

一納払之場所左右繩張致狼出入為致間敷事

一御廻米水揚井内拵沢手切替等之場所も張繩之儀右同様心得可申事

一納払ニ差出候人足共腰札御藏役所之相渡為提仕舞候節札取上可申候、尤米持ニ不懸内小揚之ものと人足不入交様可致事

一泊御藏奉行并御藏手代組頭同手代御藏番等夜中御藏庭不時ニ見廻り可申候、水揚米有之節ハ繁々相廻り候様可致事

一御年貢納取懸候節圖ニ当候目安俵一拼上並俵之分墨引致舂廻致候節、上並之分ニ限り切石相立候哉心得可申候事

一納米拵之内端拵をも圖ニ入、目安ニ当り候ハ、次之拵三拾六俵之積足俵貫目懸致舂廻し等可致候事

一御廻米之内沢手等ニ付御払ニ可相成分、村方順次第明キ御藏江為入置候様取斗可申事

一内拵之節用候千木江印為附置、其納之節用可申事

一新規之舂繕舂共斗様シ為致相納、尤繕候所江は樽与左衛門焼印為致可申候事

一御年貢内拵等之節無判之舂相用申間敷旨納宿江も急度可申渡候事

一御年貢等御藏庭ニ揚置候分、国郡俵高水揚内拵出来之日限等まで札、認為建置可申候事

浅草米蔵について (大野)

一苫菰上掛細緒之納宿封印為致置可申事

一三季御切米并御扶持方玉入候儀、渡方初日ニ玉為入置振仕廻候度毎玉柄杓江札差行事共封印為致可申事

一御米渡切候御藏内之溢米、其出役之御藏奉行直々掃除申付為掃集、又ハ渡残米貳拾俵位迄ハ其手ニ而御米有之候御藏江為連可申候事

一諸渡ニ用候菰御藏役所江差置、小揚長屋江下ケ申間敷事

一諸渡米引取相濟候迄御藏番出役為致、場所混雜無之様ニ可致候事

一納払之節出役御藏奉行御藏封印見届候迄切之、若御藏内猥ニ致置候儀有之候ハ、前封之もの江申談右舂之儀無之様可申合候事

一御藏御門出候品何ニ不寄役所切手を以差出、自分断候上断等之様可致無用候事

一御藏庭散米掃集候賃米、役所切手を以小揚頭杖突等之内差添御門番江相断、賃米分量改を請御門ニ差出候事

一水揚井内拵之人足納宿共ハ腰札為提、其納宿一手切人足引纏御門番江相断鑑札引合出入可為致候事

一御藏ニ而俵切解候小口繩等迄相改、役所切手を以御門出候様可致候事

一端米渡之節斗立候舂數急度相改、其出役之御藏奉行場所不引取内ハ猥ニ俵拵為致申間敷候事

一諸渡之節切解候俵念入はたき龜末之様可申付事

一御藏火之番家来江御用談有之節ハ御藏役所江呼出相達候様可致事

一浅草御藏囲表通土手際町番屋ニ而前々ハ貢米願候儀有之由、場所柄之儀ニ候間右舩之義無之様可申付候事

一於御門番所一切出会等不致様堅可申付事

一大川通御藏外囲生垣随分手入致し手厚ニ成候様可致候事

一太餅粗御藏ニ而挽立候節、人足等出入相改猥成儀無之様可致旨手代組頭并手代等江可申付事

一御藏庭ニ有之候御年貢米等御藏手代組頭并手代見廻り日々俵数見届置候様可致候、遠国分ハ別而巨細ニ相改候様可致事

一浅草御藏内住居いたし来候御藏番式拾人此度御用外明地江身分相応之御長屋相建不殘為引移、是迄之住居ハ取払、都合八ヶ所ニ有之水門際手輕ニ番所耆ヶ所宛相建、耆ヶ所屋之内御藏番老人宛夜中ハ兩人ツ、為相動、水門出入之守方御藏場所見廻り昼夜無油断可相動旨被申渡候

但、本文之通此度被 仰付候ニ付、御藏番増人も被仰付候旨ニ候、其旨可相心得事

一小揚之者共御奉公筋無懈怠致出精候もの江は、耆ヶ年兩三度宛も御褒美米少宛も被下置筈ニ候間其旨相心得取斗、輕もの共之儀ニ候間心得違肝曲等不致一途ニ御奉公筋出精いたし候様申付、出精之もの御褒美之儀は其節ニ相可被申事
一御年貢米等御藏場所水揚げいたし納迄之間納名主上乘之もの斗米番為致、万一怪敷儀有之候ハ、拍子木ニ而相図為致、承り

次第早速御藏方之もの罷越取斗候様可被申付事

但、拍子木ハ御藏役所より相渡し候様可被致事

一御藏場内ニ湯小屋耆ヶ所相建、御年貢米水場内拵納払等ニ付御藏場所ニ而為致、諸働不相仕廻内ハ一切御門外江不差出、仕事相済候分其一手切段、相断御門差出候様可致旨可被申付事

右ヶ条は當時取斗候様ニは候へ共、後々迄忘却無之心区々ニ不相成様、猶又此度急度申合取扱可申候、尚巨細之義ハ古坂与七郎・上遠野源太郎可相達候間其旨可相心得候

十月

右之趣御藏奉行江可被申渡候

2

御藏奉行江申渡

諸国御年貢米御藏納ニ付百姓共納入用等之諸失墜相省、御藏一舩御取締御用去々酉年古坂与七郎・上遠野源太郎被 仰付日、御藏江罷越御用取扱候處、先達而ハ百姓入用も多分相減閑東納米も切米相立候儀無之、遠国御廻米内拵減米も前々至而小分ニ而相済、納之節切石相立候は少諸渡方之節出目米ハ格別相増、右舩御救ニ相成候上御益も有之事ニ候、以後當時之振合不相破様納払之仕法正敷いたし、御藏之義身輕成人舩重々相働候事故不仕業不為致日夜無油断取斗、支配之もの江其旨急度申渡、御取締嚴重ニ相成候様可被致候
一本所御藏内ニ住居いたし来候御藏手代并御藏番共是迄之通

被差置候間、其旨相心得御取締専相心得可相動旨急度可申渡事

一本所御蔵之儀御蔵奉行泊番詰番等も無之候ニ付、為御取締御年貢米水揚有之節納濟候迄は其度、御蔵手代組頭等一人同手代兩人御役所ニ泊番為致、水揚内拵等之場所御別紙此度被仰渡書之趣急度相守候様可被申渡事

但、本所御蔵詰米之儀渡方見合詰置、是迄本所御蔵詰高之分、成文浅草御蔵江相納候様可致事

右之通此度被仰渡候ニ付申渡候間其旨急度相守可被申候、尤水門際番所并湯小屋其外御蔵番長屋被差立候御入用積早々致吟味可被相伺候、猶巨細之儀は古坂与七郎・上遠野源太郎よりも申談候筈候間可被得其意候

右之通松右近將監殿被仰渡候ニ付申渡

3

御蔵奉行江申渡

浅草本所御蔵納払之義前々仕法相立有之候得共表向仕法ニ相成候趣相聞候、御蔵一鉢引受罷在候御役儀ニ候間、其方共さへ実意専ニいたし同役急度申合勵合相動候得は如何様ニも御取締可相成儀、尤御取締之義心懸相動候ものも有之由ニ候得共、納払之場所ニ而も御取締之為不宜手廻等致候も有之由仕来ニ而申合行届不申候故、支配之もの共迄も其仕辭ニ習候趣ニ相聞候、以来同役区々、に無之様申合勵合御取締第一ニ心掛、向後水揚内拵切替等之場所ニ詰番之ものハ勿論、泊明之

浅草米蔵について (大野)

もの并納払相動候ものも御役仕舞る右場所見廻暫く様子見届、沢手輕俊撰分拵付様差米分量沢手切替膳引方苦強懸細太之義迄悉相改、其外万事心附居候手代役納宿等迄念入候様申渡、若龜末之様子も有之候ハ、聊たりとも不捨置相札、不宜筋ニ候ハ、御蔵定法之咎申付、品ニ寄其段申立候様も可致候、尤場所之見廻り候様子銘々御蔵月番之もの江委敷申聞若し不申聞候ハ、月番も相尋候様致、月番之ものも御用透見合一兩度宛も見廻り、其外ニ手代組頭も為見廻、御蔵場内無間斷見廻有之候様いたし、納方手代役人下、迄等閑成儀無之様諸事嚴重ニ申合、當時之趣相ゆるミ不申様存し吟味致可相動候

十月

4

納払仕方申合

一納米之御蔵江罷出候ハ、三方江繩張為致、尤其日之納人数之内小揚之分ハ戸前之分ニ差置、日雇人足ハ河岸の方ニ置日用札を渡させ候事

一納俵米札と手扣手扣誂合拵數算を入俵数を調、疑敷俵も有之候哉俵毎ニ改候事

一棹圖拵圖を入候節、御代官手代又ハ御預所役人并納名主上乘納引受人等為立会、杖突ニ圖を為振当候拵目懸致候事

但、御代官手代又ハ御預所役人ニ而も兩人宛罷出候事ニ候間心附、若一人ニ候間如何之訳ニ候哉相札候事

一廻立様棹圖拼圖を入当三拾六俵貫目懸、貫目違幾有之候共一口之内俵之厚薄、繩之細太、米之善惡を考、俵入不足ニ可有之被存候俵口々式俵宛取出、枳廻し之上一口式俵も平均ニ致、若元入々廻切候得は差米別段ニ取候積ニ而差米程之石数相減納札出申候事

但、貫目違老俵出候節ハ右老俵廻平均ニ枳目と見競前書之通取斗可申候、若一口ニ出候ハ、式俵廻是は平均ニ不致式俵之内入少之方相用、勿論元入々余米候ハ、何程ニ而も合米之積相心得、且拾俵以下老俵廻若貫目二口ニ出候ハ、一口々老俵宛相廻し入少之方極候事

右貫目懸并廻俵小口切其外明俵はたき候義、或ハ格桶ニ而斗枳江移候迄は引請人手先之もの差出取持、御蔵方小揚之者相懸不申候

一右納米拵之内端拵をも圖ニ入目安に当候ハ、次之拵る三拾六俵ニ足シ俵いたし貫目懸枳廻し等致候事

一廻シ俵貫目懸候上吟味不濟内は一切手を付させ申間敷事

一廻シ俵中札御代官名前国郡年分等納手扣江引合改候事

但、廻シ筵は廻シ立候節為敷、一斗枳之角老升枳置候上より米入させ名主ニ為斗候事

一納ニ懸り候節手本之箱封印切納米を米見板ニ早々引合セ、手本ニ合候分相納不十分は撰出候事

但、手本米引合候ハ、早々箱江は封印付候事

一納蔵之内見分いたし棟迄詰候様可申付候、尤御蔵内破損等有

之候ハ、御蔵番江為見置御普請方江相達候様申候事

但、前文之通梁迄御米詰候処御蔵保方為試當時は梁下迄詰候事

一先達而納置候端米差出米幾ツ有之候哉数相改不紛様見通ニ為置候事

一撰出米有之候は不紛様ニ為拵置、本米納仕舞ニ而右撰出シ俵老俵毎ニ見分いたし、勘弁可相成分は御代官并御預所役人江為見納得之上相通候事

一廻俵廻シ相濟俵之口筋り候節入念候様申付候事

一納濟候上御役所ニ而扣ニ引合相改帳面印形いたし納四半差出候事、尤帳面并納四半は月番再改致加印相調候事

庭帳但押切有 番附帳 有高帳

石留帳 但番附帳有高帳二月番加印有之候

日雇帳 小揚昼扶持帳

右相濟出役手代退散為致候事

国々俵入覚 是は別記ニ有之故略之

5 本途俵之外国々合米

三斗三升入 合八合

三斗七升入 合八合

三斗六升入甲州 合八合

四斗入 合壹升

奥州白川
四斗八升入

五斗入

合卷升三合
合卷升三合

私之仕法

一出役前御役所ニ而前日包置候手形袋と庭帳読合致印形候事
一私書出候御蔵江罷出縄張いたし日雇札為渡候儀納場所同断
一其御蔵之御米御蔵ニ而可渡ほと出切闕入廻立跡出切候上ニ而
は、俵割等手間取刻限遅相成引取等ニ差支候間、幾拼有之候
共卷掉百俵宛付候ハ、闕入廻相立可申候事

一廻立様棹闕拼闕を入当り候俵取出廻し相立可申候事

但、式俵廻三俵廻共平均廻二いたし候事

一御用米惣俵出シ切

五拾俵迄

卷俵廻シ

五拾卷俵々

式俵廻シ

一諸渡方廻シ方

五俵迄

卷俵廻シ

六俵より

式俵廻シ

式拾卷俵々以上は

三俵廻シ

一採附廻シ之分

御用大豆

御役疊刺 水盛棟梁

糊飯米

大豆 荏 施行米

御救米

猿桑扶持 作事扶持 端石渡り

猿桑作事扶持は廻し

枅 不立 埃 不切 差 不入

浅草米蔵について (大野)

右之分式拾俵迄卷俵廻シ、式拾卷俵々式俵廻シ之事

一廻シ相立出役手代俵割相済出俵高極り候ハ、其通り為出、尤
俵数得と改可申事

一渡方本俵は出役手代ニ為渡、端米は出役奉行小渡帳を扣、杖
突之者読候割札之通ニ候哉突合卷枚宛順々ニ可渡事

但、小渡場所混雜致候ニ付枅目其外共随分心付可申事

一渡方済候上御役所ニ而相改印形いたし候品々

庭帳 番附帳 有高帳 石高帳 日雇帳

小揚昼扶持帳

但、番附帳有高帳は月番加印有之

右相済出役手代相帰申候事

以上終

6

月々渡方凡石数覚

二日御役扶持

米六拾石程

廿一日渡御役扶持

米貳百九拾石程

勤仕御役扶持

米五十六百石程

不動御扶持

米八百石程

御附方御入用御次米

米八百石程

一橋御合力

米八百石程

猿桑扶持渡

米貳百五拾石程

野
旅御扶持方不時御切米御役料月割御合力米其外諸渡方
卷ケ月
米平均三千百石程

御外
御仏供料卷ケ年

米貳千五百石余

女中御切米卷ケ年

米三千九百石余

御代官扶持

米六千石程

是は春夏冬ニ渡ル

是は二月九月両度ニ渡ル

是は春夏冬ニ渡ル

五日目書上

7

一有米納払石高上納金員數書付御勝手方江差出

月帳
一惣有高一ヶ月納払出目欠差引御金蔵江納金有金等勘定帳御勝手方江差遣ス

一納払殘惣有高書付月番奉行衆江遣

一納払并惣有高帳御年貢米納人別帳御取箇方江差出ス

一惣有高一ヶ月納払出目欠差引勘定帳吟味役衆江差出ス

一三季御切米御金積請取日割書付御勝手方江差出ス

一右同断五段廉々渡切米金員數御届書付月番奉行衆并御勝手方御蔵懸吟味役江差出

一月々六日十八日廿六日、上納銀相場御勝手方江承りニ遣

是は石代金等上納之節ニ用る

一御蔵懸吟味役見廻り之節別而 御膳廻有高摺立米石數御遣方有方其外菜種稗有高書付

一御年貢米納高書付

一遺方米有高当日納払口々書付

8

但、臨時見廻り之節は末之式口而已差出候事
右之分書上懸りニ而取調候事

一奉行衆見廻り之節

当日渡方御蔵々書

御蔵貸る

当日御年貢米水揚口々

月番所る

同役詰合名前書付

書上る

前日夕御費方米有高

書上る

仙台米御買上納仕法

一棹圖拼圖を入当り候拼三拾六俵之内の圖ニ而三俵取出シ打込平均廻石詰合切之積り

年々九月中貳万石以上諸大名衆る相納候猿樂配当米代

高米四千三百七拾八石余

此代金貳千九百四兩

銀九百七拾五匁余 但金壹兩ニ付米壹石五升替
兩替六拾五匁

右渡方

米三千九百三拾貳石

猿樂之者江渡

此金貳千六百貳拾壹兩壹分銀五匁四分

内

米五百石

春日神事能料米

此金三百三拾三兩壹分銀五匁四分

残而金貳百八拾貳兩三分

銀九百六拾九匁六分五厘

是は享和二戌年々御蔵御貸附ニ相成郡代役所江相廻し候事

9 御蔵直渡 定印と唱候事

一臨時御用野旅御扶持方其外定式ニ無之臨時渡之方、御勘定所裏判ニ而御添狀無之相渡候分定印也
一御蔵直渡定例御添狀廻り引付ニ而相渡候分は定印無之一書替渡ニ而御馬飼料大豆は定印御座候事

10 書替奉行江問合候書面并下ケ札差出方

覚

京都
町奉行
禁裏附
仙洞附
二條御門番
同御殿番
同御蔵奉行
同御鉄炮奉行

伏見奉行

大坂御定番
同町奉行
同御船手
同御破損并
御材木奉行
同御鉄炮奉行
同御弓矢奉行

浅草米蔵について (大野)

同御具足奉行
同御金奉行
同御蔵奉行

長崎奉行

箱館奉行

奈良奉行

駿府勤番組頭
同御定番
同町奉行

山田奉行

浦賀奉行

佐渡奉行

日光奉行

長崎奉行御切米御役料共江戸渡但同所御代官高木作右衛門御切米江戸渡リ

箱根奉行御切米御役料共江戸渡リ支配向同所

佐渡奉行御切米御役料共江戸渡リ

日光奉行御切米御役料共江戸渡リ

11 御詰替米減石之覚

一正月より四月迄

一五月より九月迄

一十月より十二月迄

但北国米之儀は都而三割之減石

右は文化四卯年々未年迄五ヶ年季米方御用達引請之儀卯正月

式割減石

六分五厘減石

毫割五分減石

十五日御附紙濟

御詰替米廻し覺

五月⁶ 但元入

六月^迄

七月^迄

五斗入之分

但四斗八升八合

四斗入之分

三斗八升八合

三斗七升入之分

三斗七升

三斗六升入之分

三斗四升九合

三斗三升入之分

三斗壹升三合

十月^迄

五斗入之分

四斗七升五合

四斗入之分

三斗七升五合

三斗七升入之分

三斗六升五合

三斗六升入之分

三斗三升四合

三斗三升入之分

三斗壹升貳合

右は文化四卯年⁶未年迄五ヶ年季之間右之廻シを以相渡候旨
卯八月廿七日御附掃濟

12

浅草御藏御門之覺

一正月水揚米有無共上中下御門潜共明置候事

一御成大川并堅川通之節中之御門潜斗通用之事

但外は⁶切置候事

一五節旬盆中煤弘之間水門水揚米有無共中御門大川斗明置候事

13

本所御藏烏帽子堀之事^{此堀文政度御圍粗摺立候穴ニ而埋リ今其形なし}

一烏帽子堀 凡三千貳三百坪余

寛政二戌年三月十四日柳生主膳正殿被仰渡烏帽子堀江蓮

六拾本并実三升植付候、右は豊島左兵衛⁶受取浜御殿之

内之蓮之内同十五日⁶川浚右本所御藏内江入、是は久世

丹後守殿被仰渡此節穂萱植付ル、凡六千本程

一本所御藏内作り物之初、神尾若狭守殿見廻り之節余草生茂り

候間作物ニ而も為致候ハ、掃除行届可申段被仰聞、夫⁶作物

いたし候よし

一寛政六寅年四月⁶本所御藏地江御菜園出来、門崎市十郎懸り

14

御藏江粗積込国之覺

一上野 下野 安房 伊豆 相模 上総 下総 常陸

右三色ニ積込候事

15

御藏御米詰方之覺

五間二五間

三七 貳千四百俵

四斗 貳千貳百俵

五斗 千七百俵

三三 貳千七百俵

五間二六間

三七 貳千八百俵

四斗 貳千六百俵

五斗 貳千一百俵

三三 三千一百俵

五間二七間

三七 三千貳百俵

四斗 三千俵

五斗 貳千四百俵

三三 三千六百俵

右は梁下迄詰候積ニ此度相成候ニ付如斯之俵数ニ成

但、梁迄一杯ニ詰方いたし候迄は凡俵数四斗ニ而拾貳万

千俵石ニシテ四万八千四百石之減ニ成ル

梁間五間桁行七間

三七 三千九百俵 此石千四百四拾石

四斗 三千六百俵 此石右同斷

五斗 貳千九百俵 此石千四百五拾石

三三 四千三百俵 此石千四百石余

平均千四百石余

梁間五間桁行六間

三七 三千四百俵 此石千貳百五拾石

四斗 三千貳百俵 此石千貳百八拾石

五斗 貳千五百俵 此石千貳百五拾石

三三 三千八百俵 右同斷

平均千貳百石余

浅草米蔵について (大野)

梁間五間桁行五間

三七 三千俵 此石千一百拾石

四斗 貳千八百俵 同千一百石余

五斗 貳千貳百俵 同千一百石

三三 三千三百俵 同千九百石余

平均千一百石余

壹万石俵数大凡

三七 貳万七千貳拾七俵余

四斗 貳万五千俵

五斗 貳万俵

三三 三万三百三俵余

16

一浅草御蔵惣構地坪 三万九千八拾八坪

一御蔵惣立坪 八万六拾坪

一御蔵惣構練堀延長四百八拾七間壹尺

一御蔵棟数 五拾四棟

一同戸前数 貳百七拾戸前

内

一五拾壹戸前 東向 一貳戸前 西向

一百四戸前 南向 一百拾三戸前 北向

一諸道具置所 壹ヶ所貳拾坪

一御役所建坪 百五拾貳坪貳合五勺

八三

- 一御証文蔵 老ヶ所建坪拾貳坪五合
- 一御金番所 同建坪拾坪五合
- 一供部屋 同建坪七坪
- 一御膳糧挽場 建坪七拾七坪七合五勺
- 一御番請方小屋場 建坪三拾貳坪五合
- 外
- 木挽小屋石灰切切場 拾八坪
- 一湯沸所 建坪拾貳坪
- 一納方詰所 建坪貳拾貳坪半
- 一上ノ御門 高サ八尺貳寸 同潜リ 高五尺六寸 巾八尺五寸 巾三尺八寸
- 一同番所 建坪八坪
- 一中ノ御門 高老丈 巾老丈壹尺 同潜 高五尺八寸 巾三尺八寸
- 一同番所 建坪八坪
- 一下ノ御門 高八尺八寸 巾老丈 同潜 高六尺 巾三尺八寸
- 一同番所 建坪八坪
- 一水門八箇所 但冠木下々地面迄高老丈 六尺巾四間 建坪貳坪貳合五勺ツ、 但老ヶ所 建坪貳坪五勺
- 一同番所同断
- 一新番所老ヶ所同断
- 一御蔵堀間数
- 一番堀 長四拾七間 巾九間半
- 二番堀 長六拾三間 巾拾老間
- 三番堀 長八拾老間 巾拾四間
- 四番堀 長八拾間 巾拾間
- 五番堀 長九拾九間 巾拾間五尺
- 御役所前 六番堀 長九拾五間 巾拾老間
- 七番堀 長九拾九間 巾拾間四尺
- 八番堀 長九拾老間半 巾拾老間四尺
- 一御蔵奉行御役宅貳ヶ所
- 但老ヶ所地坪貳百坪余宛
- 建坪 本家五拾八坪七合五勺宛
- 長屋拾八坪貳合五勺
- 土蔵四坪
- 一御蔵番長屋二棟
- 但、貳拾五人分此建坪百六拾八坪余老人分六坪宛
- 一小揚長屋
- 〔頭カ〕拾八人
- 杖突貳拾四人
- 平百五拾三人
- 一火之見櫓老ヶ所
- 稻荷社地
- 別当
- 老人拾坪半宛
- 老人六坪宛
- 老人四坪半宛
- 惣高柱石々桁迄三丈八尺五寸本家桁々火之見 桁迄貳丈五尺
- 三百六拾坪
- 東叡山 福祥院

一本所御藏惣構

地坪三万坪余

内

貳千八百七拾七坪半

是は久保加賀守殿江御預ケ地ニ相成候分
(米)「但安政五年返地ニ成ル」

一御藏惣立坪

一御藏棟数

三拾七棟

一同戸前数

貳百四拾六戸前

一御役所建坪

三拾三坪

一湯小屋門

三坪

一納方詰所同

四坪

一西御門

高八尺五寸
巾八尺五寸同潜高六尺五寸
巾四尺

一同処住居

御藏番
平井岩次郎

一南御門

高九尺
巾九尺五寸

同潜り無之

一同処住居

同

一東御門

高九尺九寸
巾九尺五寸

同潜無之

一同処住居

同
石坂文助

一水門卷ヶ所

間尺淺草同断

一番所卷ヶ所

但建坪卷坪五合

一御藏奉行御役宅五ヶ所

但卷ヶ所地坪三百坪余宛

建坪

本家六拾四坪五合
長屋拾八坪式合五寸宛

浅草米蔵について (大野)

浅草米蔵について (大野)

浅草米蔵について (大野)

一本所小揚長屋惣構地坪六百三拾坪

長屋建坪貳拾四人分百拾七坪

一浜御殿地内御藏棟数三棟戸前貳拾六口

右粗有高

右粗有高
右粗有高

右粗有高

右粗有高

右粗有高

右粗有高

右粗有高

貳拾壹番

同同断

貳拾貳番

同貳千五百俵

貳拾三番

同貳千四百九拾五俵

貳拾四番

同三千九百八拾四俵

貳拾五番

同三千三百貳拾三俵

貳拾六番

同四千貳百七俵

追々摺立ニ相成當時御詰高無之

御米位附

上米

一 美濃四 一 三州四

中上米

一 遠州四 一 駿州四 一 武州三七 一 房州

一 播州都筑 品川 一 豊前 一 筑前

一 播州六郷 稻毛 一 肥前 一 甲州

一 川崎 神奈川 一 松伏 一 勢州

一 久良岐 幸手 一 府中 一 新方

一 八丈 松伏 一 越ヶ谷 一 多摩

一 武州三七 一 中米

一 野方 横見 一 世田谷 一 阿部

一 赤山 見沼 一 石戸 一 大谷

一 上州三七 一 豆州三七 一 摂州五 一 若州五

一 阿州五 一 讚州五 一 相州 一 筑後

一 野州 一 上総三七 一 下総三七 一 小金

一 中次米 一 豊後五 一 越後四 一 丹後四

一 作州三 一 村山三七 一 奥州 一 羽州

一 米沢 一 福島四 一 田川四八

一 岩城三三 一 常州三七

一 越前四 一 石州四 一 下総三七

一 猿島 相馬 岡田 豊田 千葉 印旛 結城

三斗三升入 八合
三斗七升入 八合
合米 四斗八升入 八合
五斗八升入 八合
五斗八升入 八合

20 上米

御用米 御合力米 御位牌料 御仏供料

御役扶持 女中御切米

中上米

一 御役料 上御切米 御役扶持 女中御切米

中米

勤仕御切米 其外品、渡り

中次米

不動御切米 同御扶持 定扶持 作事 猿染

諸渡之方

御用米 米を受取方江為見惣儀出切圖入

五拾俵迄老俵廻、五拾老俵々式俵廻し、細太餅米大豆同断

新官様御方料米

右御用米渡之通附送なし

御三卿様膳米渡 請取方役人江米為見候事

御用米渡之通御膳方御蔵ニ而米を台木江乗出し申候廻方同断

御靈屋料御仏供御位牌所料

女中御切米 御三卿様御賄料

右之分請取方江米為見候而相渡ス、廻し諸渡之分同断三俵廻し之事

諸渡之分

五俵迄壹俵廻し、六俵ヲ貳拾俵廻貳俵、貳拾壹俵以上三俵廻し

但御靈屋料之類ハ細太餅米も廻し方右同断

株付廻し之方

御用大豆 御払物 国役登差 水盛棟梁 糊飯米

大豆 荳 施行米 御救米 稗 猿樂扶持

但猿樂扶持は不立
作事扶持は埃不切

右之分貳拾俵迄壹俵、貳拾壹俵以上貳俵廻し

御払米

近江屋喜右衛門・垂見屋清右衛門懸リニ而有之候節、左之通

諸渡方同様廻ニ而三俵出打込平均廻ニ而相渡候事

端石渡

壹俵ヲ拾九俵迄壹俵、貳拾俵以上貳俵廻

酒造人江押借米渡

御払米同断之事

御賄方御次江新米渡候儀

十一月十七日後より渡候事

御膳米御鉢代リ

御鉢代毎年四月十一日比相代候

右は御賄方江相願置申候来次第御勘定所江相届申候事

浅草米蔵について (大野)

但御膳方相届候事

21

渡方内評議

御側衆 御勘定奉行 吟味役

右駿州 遠州 播州 豊前 橘樹 稻毛

神奈川 六郷 川崎 品川 馬込 房州

御留守居 大目付 町奉行 御側衆子息

御勘定奉行子息 御小納戸 奥医師 狩野榮川

御勘定組頭

右播州 豊前 久良岐 幸手 八条

新方 越ヶ谷 式郷半 松伏 府中

御作事奉行 御目的 小普請奉行 奥御右筆

書替奉行 御同朋頭

筑前 肥前 甲州 勢州 野州 世田ヶ谷

横見 上州 豆州 岩附

此外勤仕以外ニ而は右國々次之方相渡候米不足之節は勤仕以上以下共左之通相渡

田河 豊後 越後 丹後

御扶持米不足之節は

豊後 野州

右は先年内評之由、當時は右之位之心得ニ而三色ニは分不申候、少々小口受之分は撰り不申候、相渡候米之位は前々之通ニ心得候事

22

上野芝江附送直段

上野江巻俵ニ付四分六厘宛 端式斗々巻俵之積

但拼込人足巻人巻々八分九厘四毛 但四斗入候積

高千七百九石

此俵四千貳百七拾貳俵式斗

此代銀壹貫九百六拾五匁三分五厘

此拼込九拾人此代百八拾巻々四分四厘

芝江巻俵ニ付九分六厘 端之分不足

但拼立人足なし

高貳百四拾五石

但四斗入積

此附送代五百八拾七匁五分貳厘

此外増上寺御位牌所料有之候得共附送無

式口ノ貳貫七百三拾四匁三厘

此金四拾五兩貳分四匁余

三口ノ貳千三百七拾石五斗

但亥年奥江渡高之分

23

大御番交代延御扶持方渡

天明六年午二條下リ太久保
朽木

同大坂下リ遠藤 同八申大坂 本庄 秋元
白須 遠藤 水野 寛政四子大坂 立花 寛政五大坂

白須

右交代延ニ而御扶持方渡は書替渡故、越後位之処勤仕御扶持

宜処ニ而相渡

24

一遠国御役人被 仰付御合力米御当地ニ而取越被下候分ハ、御

切米之時節ニ相渡候共皆米ニ而相渡申候事

一遠国御役人被 仰付為支度御切米御役料取越被下候故、譬ハ

春御借米御張紙日限之内御借米受取候共皆米ニ而相渡候事

但、遠国御役人は彼地ニ而皆米ニ而渡り候由ニ付如是

一佐州御役人被 仰付候衆御張紙日限之内ニ候得は米金ニ相渡

候事

但、佐州ニ而皆米渡之由ニ付、宝曆十二年五月大野助

次郎夏御借米御役料米金ニ而渡、若林市左衛門ハ夏冬御

切米一紙同御役料一紙手形取皆米ニ而渡

一二条大坂駿府登御番衆取人代人ニ而跡ヲ登リ衆取定米之義、

御張紙日限之内ニ候得は米金ニ而相渡先格

一譬は春御借米日限之内遠国御用被 仰付、春夏一紙手形ニ候

とも引分ケニ不及、享保八卯年同書ニ准皆米ニ而相渡候事

但、明和二酉年二月遠藤平左衛門日光御用ニ付其節春夏

御借米一紙手形ニ而御張紙日限之内手形出候へ共、評議

之上皆米ニ而相渡

25

一御当地御役人被 仰付御足高被下候節、譬は夏御張紙之内春

夏之御借米一紙手形ニ而出候ハ、手形引分ケさせ夏之分ハ

米金ニ而相渡候事

26

一遠国御用被 仰付御切米御借米無差札可相渡旨書替る断有之候節、組附一紙手形ニ而相渡候、其内譬ハ拾人組合之内五人無差札之断有之候而も、右五人分限高御蔵ニ而不相知候ニ付、無差札ニ可相渡高書替る取之候筈

但、明和二酉年二月日光御用ニ付春御借米無差札之儀書替る申来候ニ付一紙手形之内無差札可相渡分ハ書付無之

27

一御切米御扶持方共玉落候以後受取人病死之者札差方申出候共、書替る断無之候ハ、米金相渡候事

28

一御賄方江相渡候御用米御手支候ハ、御賄頭仮手形ニ而相渡候儀寛延元辰九月伺書ニ御附紙相濟候事

29・30

御蔵直渡之分、并諸向渡米裏判之事

一御用米并大豆

御勘定所裏判

但、御勘定所裏判不相濟内急御用之節は、御賄頭仮手形ヲ以可相渡旨寛延元辰九月伺相濟

一瑞春院様

増上寺

一天英院様

同

一月光院様

同

浅草米蔵について (大野)

一御仏供料

寺社奉行老人并御勘定奉行裏判

一有徳院様

至心院様

正雲院様

一惇信院様

随性院様

花光院様

一深地院様

淨円院様

一御仏供料

書替奉行判

一御位牌料

一御賄料

御勘定所裏判

黒本尊

一御賄料

寺社奉行老人并御勘定所裏判

御三卿様

一余分米

御勘定所裏判

御代官扶持

御勘定方御用扶持

御勘定所支配向一鉢其外共御役扶持

右は御勘定所裏判

大御番在番

一二條 仮御破損奉行御扶持

御勘定所裏判

一遠国江被遣候月割御合力并月割

右同断

一御合力御扶持

右同断

一遠国江御使若年寄衆御老人并被遣候

右同断

一御扶持方

御勘定所裏判

一御船御修復御用并麻馬衆財頭懸

御勘定所裏判

一引手繩拵立候者并吹上御庭支配之者

御勘定所裏判

一医学館定式并御參向御入用御扶持方

右同断

八九

- 一 御鉄炮御用
- 一 并御鷹野先御用、御薪伐出之御用御堀浚御用、川々御普請御用并元払御金蔵御用其外右之類加扶持御役扶持方
- 一 御作事扶持并御役作事扶持
- 一 道中筋御救米
- 一 施行米
- 一 琉球人警固之者御扶持方
- 一 勘鷹之餌鳥移同心御扶持方
- 一 無宿囚人扶持溜ノ預ケ囚人扶持
- 一 老養扶持
- 一 油ニ成候在
- 一 寄場御入用米
- 一 火附盜賊改方同心御扶持方
- 一 御鷹匠野扶持并同心野扶持
- 一 御犬牽野扶持并犬扶持
- 一 御鳥見野扶持
- 一 厩桶并御用扶持方
- 一 浜御殿地御用詰黒鐵之者御扶持
- 一 同御掃除之者御扶持方
- 一 野鷹移之者御扶持方
- 一 御作事御徒飯役御扶持方
- 一 小普請方御徒飯役御扶持方
- 一 御材木蔵雇手代御扶持方
- 御勘定所裏判且添状来リ
直判渡之儀も有之
- 御勘定所裏判
- 道中奉行老人并御勘定所裏判
- 御勘定所裏判
- 若年寄衆御老人御勘定所裏判
- 御勘定所裏判
- 右同断
- 町奉行裏判
- 御勘定所裏判
- 右同断
- 火附盜賊改方直判
- 御鷹匠頭裏判
- 右同断
- 御鳥見直判
- 天文方直判
- 浜御殿奉行裏判
- 右同断
- 御鳥見添状来手形ハ御目付兩人裏判
- 御作事奉行裏判
- 小普請奉行裏判
- 御材木奉行裏判
- 一 御材木御手当米
- 一 江戸本所深川絵図大工扶持方
- 一 諸々屋敷受取渡并御普請水盛繩張地割棟梁
- 一 牢舎之者御扶持方
- 一 大奥并長局御普請懸扶持
- 一 酒造拝借米 但臨時之分方
- 右之外不時御用ニ而相渡候節ハ添状ニ而直判渡も有之、又ハ御勘定所裏判ニ而相渡候義も有之候事
- 町奉行裏判
- 番之頭ハ直判添番伊賀小人御下男は番之頭裏判
- 御勘定所裏判
- 右同断
- 御老中御老人并御作事奉行裏判
- 御普請奉行裏判
- 31 壹ヶ年諸渡方凡積
- 一米拾六万四千石余
- 内拾四万四千石程 月々渡方并定扶持方 渡リ
- 但壹ヶ年壹万貳千石ツ之積貳万石程月々不時御切米 渡リ
- 毎月定御扶持方渡リ
- 凡六千貳百石程
- 内勤仕五千四百石程
- 不動八百石程
- 外諸渡方三千八百石程是は高下有之
- 都合大積リ一書ニ
- 拾八万四千石余
- 三季御切米渡リ方凡積

一米五拾五万石余

内

拾四万石

右同断

貳拾七万石

一米四拾壹万貳千石余
四分三米
渡リ

内

拾万貳千石程

三万五千両程

右同断

右同断

貳拾万貳千石程

六万八千両程

三口ノ金拾三万八千両程

一米三拾六万六千石余

内

九万三千石程

四万七千両

右同断

右同断

拾八万石程

但御金積之儀は米三拾五石ニ付
金三拾五両直段之積
皆米渡リ

春御借米

夏同断

冬御切米

春米渡リ

同金渡リ

夏米渡リ

同金渡リ

冬米渡リ

同金渡リ

三分貳米渡リ

春米渡リ

同金渡リ

夏米渡リ

同金渡リ

冬米渡リ

浅草米蔵について (大野)

九万両程

三口ノ金拾八万四千両

一米貳拾七万五千石余

内

七万石程

七万両程

右同断

右同断

拾三万五千石程

拾三万五千両程

三口ノ金貳拾七万五千両

一米拾七万四千石余

内

四万七千石程

九万三千両程

右同断

右同断

九万石余

拾八万石程

三口ノ金三拾六万六千両

一米拾四万石余

内

三万五千石程

同金渡リ

半分米渡リ

春米渡リ

同金渡リ

夏米渡リ

同金渡リ

冬米渡リ

同金渡リ

三分一米渡リ

春米渡リ

同金渡リ

夏米渡リ

同金渡リ

冬米渡リ

同金渡リ

春米渡リ

拾万五千兩程

同金渡り

右同断

夏米渡り

右同断

同金渡り

七万石程

冬米渡り

貳拾万兩程

同金渡り

三口ノ金四拾壹万兩

三季五段渡切御届之儀是迄当日朝御届候処、寛政四亥年五月

十二日翌日御届可申旨横屋幸之進・勝屋彦兵衛ノ申来候、御

借米御切米渡方は御張帟出候日ノ八日目玉入御金渡九日目渡

初ル

32

御切米冬斗請取候名前

一百俵

高木菊次郎

一五拾俵

広徳寺

一三拾五俵組合

御届大工
細井藤十郎
野々山孫助

一貳拾四俵

御助物師
榛名伊豫

一拾俵

守随彦太郎

一五俵

小普請
大草栄之丞

夏斗無春冬

大御番
小幡平八郎

一貳拾俵

御大器大工
松井新左衛門

春冬斗無夏

一拾五俵

大御番

一貳百俵

佐野五左衛門

御扶持方

三十日ニ
一耆斗八升五合五勺

同
一右同断

同
一耆斗

同
一貳斗五升

半々附候御扶持方

一四人半扶持

小普請
原田藤五郎

一三人半扶持

同
戸山彦次郎

一貳人半扶持

同
渡辺瀧右衛門

33

高掛り御扶持方

一貳百五拾石ノ八百九拾九石迄五拾石ニ付耆人扶持ツ、増ス

一九百石ノ貳千九百石迄百石ニ付耆人扶持ツ、増ス

或ハ貳千石三千石之内ハ御扶持方無之、御関所越候得ハ一

倍扶持

一貳千九百石ノ五千石迄百石ニ付耆人半扶持増之積リ

一三日路隔候所五割増

一四日路隔候所一倍増

元禄六四五月御代官手代江州論所江被遣候節御代官衆ノ

御勘定所江被伺候得ハ

一二十五里迄ハ 五割増

一二十五里四五町有之処ハ一倍増ニ被下候由、右定書町奉行ノ

此方江三月相渡候、自今ハ此書面ヲ以御扶持員數相極メ出し
可申旨被申渡候由

登前ハ無玉ニ而渡ル、取越米ハ皆米渡リ

二條ハ玉なし、大坂ハ春玉入

春百五拾俵 高十二割 五拾俵

夏同断 高半分 三百俵

冬三百俵 同 貳百五拾俵

同百三拾七俵 同 四拾六俵

同同断 同 貳百七拾五俵

同貳百七拾六俵 同 貳百廿九俵

同右百貳拾五俵 同 四拾壹俵

同同断 同 貳百五拾俵

同貳百五拾俵 同 貳百九俵

同百俵 同 三拾三俵

同高四百俵 同 貳百俵

同貳百俵 同 百六十七俵

同八拾七俵 同 貳拾九俵

同同断 同 百七拾五俵

同高三百五拾俵 同 百四拾六俵

同八拾俵 同 貳拾七俵

同同断 同 百六拾俵

同高三百貳拾俵 同 百三拾三俵

同百六拾俵 同 貳拾五俵

同七拾五俵 同 百五拾俵

同同断 同 百貳拾五俵

浅草米蔵について (大野)

36 三季御切米渡方并在番二條大坂登年渡方割

九三

35 書替三季五段手形渡リ日

以下二月十二日 但御張紙書替日割之仕廻之日々八日目也、

五段とも左之通

以上同十六日

不勤以下同十九日

同以上同廿二日

勘役料廿四日

譬ハ勤仕以下二月二日迄と有之候得ハ
五日々八日渡し書替同也

高貳百八拾俵	同同断	同	貳拾三俵
		同	百四拾俵

高式百八拾俵	同同断	同	百四拾俵
--------	-----	---	------

百四拾俵	同	百拾七俵
六拾貳俵	同	貳拾壹俵

六拾貳俵 同 貳拾壹俵

高貳百五拾俵	同同断	同	百貳拾五俵
--------	-----	---	-------

百貳拾六倭 百四倭

五拾貳俵	同	拾七俵
------	---	-----

高式百八俵	同同断	同	百四俵
-------	-----	---	-----

百四俵
八拾七俵

五拾俵
高八步二割貳拾五俵

高式百俵	同同断	同半分	百俵
------	-----	-----	----

百億
七拾五億

拾伍元	同	拾伍元
-----	---	-----

高百俵	同同	同	五拾俵
-----	----	---	-----

五拾伍 三拾八

現米	三拾八石七斗	高十二畝	九石五斗
----	--------	------	------

高百拾五俵	同同断	同半分	五拾七石五斗
-------	-----	-----	--------

五拾七石六斗 四拾八石

三拾七倭	高八步害	拾九倭
------	------	-----

高百五拾俵	同同斷	同半分	七拾五俵
-------	-----	-----	------

七拾六億 五拾六億

一向後納払共人数之儀、譬ハ三人不足ニ候ハ、一人御益ニ相立、残り貳人ハ賃米ニ直し、右手之小揚共江増し御扶持ニ遣

ス積リニ相極候事

右之段吟味役衆江申達置候事

右割合之覺

一銀壹匁二付米壹升六合六勺四才

但、三拾五石二付金三拾五兩直段積り

一日雇老人分式勿壹分

此價米三升三合六分

但、小揚拾貳人半二当ル、小揚共出扶持貳合五々ツ、

38 御普請方憑

一手代御藏番杖突

御役扶持

右は翌月俣手形を以て壹ヶ年限り裏判手形二弓替申候事

一諸懸役并助手代御役扶持

右は翌月仮手形ヲ以相渡三ヶ月目ニ裏判手形ニ引替候事
御藏手代

一昼御扶持方

御藏小揚

一日々納扠昼御扶持

右同断

右之通寬政五丑年九月廿日御附紐相濟

私人割

一五拾石以上

米見共

七人

一五拾石
一七拾石迄

同

八人

一七拾石迄
一百石迄

拾人

一貳百五拾石迄

拾人
拾六人迄

右四斗入ニ直して七分懸内番を入申候、右七分ト言ハ千俵ニ付

七人宛持也、内番ハ百石ヲ貳百五拾石迄拾貳人、貳百五拾石

三百石迄拾四人、三百石以上は拾六人

但私人割千石当リ

一譬ハ千石之私四斗入ニ直貳千五百俵也

此人数高三拾三人

内七分を懸持人拾七人余

内番拾六人

一貳百五拾石余
三百石迄

右日雇入候節之減方前之通
拾八人拾九人

但右同断内番拾四人加ル

一三百石以上
但右同断内番拾六人加ル

再役納人割

二千俵
貳拾壹人

同私人割

一百石
拾七人

運人割

浅草米蔵について（大野）

一五拾俵以下

三人
五人迄

一五拾俵余

六人

一六拾俵迄

但道浜町百俵ニ付壹人五分之割内番ハ
私之内番之割合

一六拾俵余

七人

一八拾俵迄

八人

一八拾俵余

拾貳人

一百俵余

拾貳人

一百五拾俵迄

拾四人

一貳百俵余

拾六人

一貳百五拾俵迄

拾六人

一三拾俵以下

八人

一三拾俵余

拾人

一五拾俵迄

拾貳人

一八拾俵余

拾四人

一百貳拾俵迄

拾六人

一百六拾俵迄

拾六人

一百七拾俵以上

拾六人

一五百人

拾六人

但壹人ニ付貳匁貳分四厘

拾六人

内春夏 貳百五拾人ツ、
内冬 貳百人

拾六人

但是は御切米端石九俵ニ而受取候ニ付此人足作俵之
手当ニ出ス

拾六人

40

札差共御門出入差留候覺
書替奉行裏判

一片判之手形出候ハ、六ヶ月御藏停止
同断

一両印無之候ハ、老ヶ年御藏停止

一二ノ玉入候ハ、永停止

是は玉入其日切之節と相見申候

一日限達

百日

一四半落

五拾日

是は只今ハ鑑札に相成申候

41

米間屋之覺

一本船町

小船町 小網町

中買 伊勢町

米屋 一片町

森田町 天王町

鎌倉町

42

毎月御扶持ン日

一六日

十二日 十八日 但十二月ハ二日 九日

御金渡リ日

一朔日

十日 十八日 廿四日

同納日

一六日

十八日 廿六日

評定所式日六時

一二日

十一日 御老中 廿一日 金公事

但十一日御老中御出座無之節ハ

今日御出座

同立合五時

一四日金公事 十三日 廿五日

同寄合五半時

一六日 十八日 廿七日

43

御藏ニ而毎月油請取候覺

一二月

大三斗六升三合 但燈心添

一八月迄

小三斗五升五勺

一九月迄

大三斗七升五勺

一正月迄

小三斗六升五勺

右之手形杖突ニ為持御勘定所油奉行役所江遣しあらハ御断之書
本ノママ

44

諸納方之分

御年貢米大豆荳稗菜種、寛政二戌年九月廿六日上条孫四郎登

城ニ而久世丹後守申渡、新規御仕方近江屋喜左衛門納宿被

仰付

一是迄之通棹圖拊圖を入当リ三拾六俵貫目懸、三口出候ハ、老

口より二俵ツ、目好之積取出し、老俵ツ、斗立平均入少之方

を取用候、幾口出候とも右之通り

但老口出候ハ、式俵取出し老俵ツ、斗立不致
平均入少之方用候事

一幾口も出候内老俵出候ハ、老俵斗立、式俵平均之俵ト見競

入少候ハ、用候事

但千俵迄壹俵廻し二口出候時ハ貳俵廻し拾壹俵
右仕法之通り

俵以上三俵廻し

45

御年貢代御蔵出米納方

一是迄右納仕法之通棹圖拼圖を入当三拾六俵貫目懸壹口ニ出候
ヘハ壹俵廻し、尤無心元存候得ハ貳俵宛も廻し申候

但、元廻し五合切下之事、切石立候得ハ石詰納之事、
貫目懸升廻し之世話ハ米指杖突小揚ニ而いたし候、是ハ
古来之通升取ハ納方ニ出候事

46

御年貢代町米納并合米之事

天明七末年十二月廿四日伺之上定ル

一棹圖拼圖を入当払廻し之通三俵圖ニ而出し、平均定法之合米
丈切下ケ、御蔵納三斗ニ三斗貳升九合迄合七合三斗、三升ニ
三斗九升九合迄合八合、四斗ニ四斗七升九合迄合壹升ツ、
四斗八升ニ五斗迄合壹升三合
但三拾五俵迄 貳俵廻し
三拾六俵ニ 三俵廻し

47

切替不成浦證文附見分仕法

一何百俵有之候共不殘貫目懸幾口ニ出候共当リ貳本ニ而圖入、
当候株之処ニ而又、何俵ニ而も当リ貳本、又次之当株ニ而も
同断、都合貳俵取出斗立貫目惣平均ニ成

但、貳拾俵迄壹俵廻し、貳拾壹俵ニ百俵迄貳俵廻し、百

浅草米蔵について (大野)

48

御蔵出米御買上納仕法

(下卷)

一御蔵出米ニ而朝払廻し之儘俵數改納候、尤納ニ出候迄小揚頭
杖突之内耆人附置候事

49

町米御買上納 并太餅米 大豆 菜種 荳 荒稗

一棹圖拼圖を入中リ三拾六俵江又、中リ圖三本入払之通打込、
平均石詰納也

右は寛政二戌年十月朔日御附紙相済来、依之細太餅米大豆荒稗
荳菜種等も是ニ准し申候事

但、貳俵ニ三拾五俵迄貳俵廻し、三拾六俵ニ三俵廻し

50

御買上太餅米大豆納仕法

御買上人

飯塚堂之丞手附
荒井孫助

一棹圖拼圖を入中リ三拾六俵貫目懸、壹口ニ出候得共壹俵宛斗
立、建札入通ニ相成候得ハ不及差米、是ハ孫助ニ限り候事

51

駿州清水御詰米一ツ橋御通納米

柴村藤三郎

九七

一 掉圖拼圖を入三拾六俵貫目懸、何段出候共圖ニ而壹俵ツ、取出し平均廻シ

52 水戸殿御返納米納仕法

一 惣俵圖入払廻之通三俵打込平均石詰ニ而納申候

53 松平豊後守返納米納仕法

一 御藏出米ニ而朝払廻し之儘廻し無之俵数改納申候

54 城詰米納仕法

寛政三亥年十二月七日被仰渡、惣高七万五千三百七拾三石三斗四升七合七勺八才

一 圖ニ而三俵打込平均廻し之積石詰納、尤俵入ニ不拘合米無之積手本米ニ合を不申候共御遣方有之候得は納候事、鼠喰濡沢手ハ相改相通候事
切替米致候納方同断

但、水揚人足根大打苦弼懸外之人足等不殘四人之納宿致候事

55 納米人割

一 五拾俵以下 三人^ハ見合
一 五拾俵より 五人迄
一 百俵迄 六人
一 貳百俵迄 七人

一 貳百俵^ハ 八人
一 三百俵^ハ 八人
一 四百俵^ハ 九人
一 五百俵^ハ 拾人
一 六百俵^ハ 拾壹人
一 七百俵^ハ 拾貳人
一 八百俵^ハ 拾三人
一 九百俵^ハ 拾三人
一 千俵^ハ 拾四人

但、四千俵迄ハ右之割、四千俵以上俵高江八分を懸、内番女人加^マも五斗入三斗三升入ハ四斗直し人数割致候事

56 日雇入候節人数割

一 譬ハ千五百俵之納にして拾四を懸貳拾壹人と成ル、是ハ納人数高也

右之内 小揚拾人出之 同壹人減之
日雇拾人出之

右日雇減方之儀ハ明和二酉年十一月^ハ壹割貳分五厘減之積

57

一 五拾俵迄 六人
一 五拾俵余^ハ 七人
一 七拾俵迄 九人
一 七拾俵余^ハ 九人
一 九拾俵迄 九人

一百俵[△] 拾人
一百五十拾俵迄
一百六十拾俵[△] 拾貳人[△]
貳百俵迄 拾四人迄
再役ハ右割合ニ五割増也

58

納米人数割方

朝役拾四を懸日雇入夕役拾七半を懸日雇無夕役
右之通有俵江懸内番共何人ニ成

但百俵ハ右之割ニ不当

一御蔵出米を代米ニ納候ニハ中札入候ニ不及候事

一御蔵出来御買取手前江引取候而代米ニ納候節は添中札入可申候
但何斗入ト申儀書記申間敷事

一町米代米ニ納候節ハ中札入可申候、是又何斗入ト申儀書記申間敷事

59

勘米方御用達○甲ハ納方斗

御廻米御用達

小出屋嘉兵衛 鹿嶋屋喜兵衛○伊藤安五郎

橋本清右衛門○佐野屋利兵衛 綿貫屋正吉○上田屋伊助

60

内拵人足定法

一五拾俵迄 貳人
一百俵より 四人
貳百俵迄

浅草米蔵について (大野)

一三百俵迄 五人

一四百五十拾俵迄 六人

一六百俵迄 七人

一七百俵迄 八人

一八百俵[△] 九人

一九百俵迄 拾人

一千俵迄 拾老人

一千三百俵迄 拾貳人

一千五百俵迄 拾三人

一千七百俵迄 拾四人

一千九百俵迄 拾五人

貳千俵迄 拾六人

61

同切替人足

一百俵ニ付

六人

62

納宿[△]出ス冥加金

一金百六拾兩

但毎年二月金八拾兩宛上納

63

納宿[△]出ス御益人足

一三万人 内貳万貳千人 水揚人足

右巷ヶ年兩度代金ニ而納ル

右之分當時不用ニ成ル、納引請人御改正ニ而右之引受人共御免ニ成ル

64

納方下代納万人足頭

名前
納方重下代
清八
見督
武平
甚助
同見廻り手代
兵次郎
同筆頭手代
万右衛門
儀兵衛
見習清經兼
弥三郎
同清經下代
太右衛門
十助
忠兵衛
新兵衛
武兵衛
兵次郎
同出役下代
庄兵衛
喜八
庄市
軍次

一〇〇

太助
徳藏
与市
久七
仁兵衛

同入足頭
者番組
弥八
孫八
三番組
安右衛門
四番組
幸次郎
五番組
清助
納人下宿

三好屋留藏
江原屋平八
笠倉屋伝吉
越前屋平兵衛
下総屋庄兵衛
吉野屋新藏
福田屋勝藏
伊勢屋宇八
松本屋幸助

65

納宿骨折給被下之儀御尋ニ付奉申上候
一出羽奥州筋 但彦俵ニ付鰯壺文五分ツ、此儀ハ御廻米壺石
ニ付五升ツ、之欠米御座候、納相仕舞百姓引取ニ相成、御払
米之節納宿其外米屋共入札御取被遊、御払之節売手世話料江

為金苞兩ニ付米貳升ツ、被下置候、依之給米之儀関東筋并ニ不被下其節御代官様被 仰付次第ヲ以給錢壹俵ニ付壹文五分ツ、頂戴仕来候、尤急度仕候書付等は無御座候得共、申伝を以納宿一同承知仕罷在候

一上方中国西国筋北国筋

但壹俵ニ付米六勺ツ、

此段は御廻米壹石ニ付三升ツ、欠米御座候、依之右同断

一関東甲州信州筋

但壹俵ニ付米壹合ツ、

此段は欠米無御座納宿骨折給斗之儀ニ御座候間如此頂戴仕来候

右は納宿森村屋久次郎ニ申付書付取候由

66 御廻米期月覚

一関東伊豆米 奥州米

一九月より十二月迄皆済 一十月より翌正月迄皆済

羽州米沢米

一三月不残積四月中皆出帆

海道筋之米

一十月より船積四月中出帆

一甲州米

越後越前能登羽州田河

一三月より船着之筈、

空船着次第舟積四月中不残積湊出船之筈

一中国米

一翌正月皆済

一丹後米

一正月空船相廻筈、入津次第早速船積三月中皆済

一西国米

一十一月空船相廻筈、入津次第早速船積翌三月中皆済

67 新規研定直段

樽与右衛門

浅草米蔵について (大野)

一壹斗枡 三拾七匁五分

一七升枡 貳拾九匁

一五升枡 貳拾三匁

一壹升枡 五匁八分

一五合枡 三匁七分

一貳合五勺枡 三匁

一壹合枡 貳匁五分

右損し直代先年は相定居候由、近年損し之甲乙ニ而直段為附候方下直ニ付、其節之直段附為致候事

千木直段

守隨彦太郎

一貳拾六匁目懸 三拾三匁七分五厘

一同衡替 拾六匁貳分

一同取緒附替 五匁四厘

一同卷銅仕直 同断

一錘糸附替 壹分五厘

小買物定直段

登人ニ付

引受人 壹匁八分九厘 三浜屋君次郎

登人ニ付 壹分二付 同人

登人ニ付 壹匁八分九厘 同人

登人ニ付 壹匁六付

引受人 九分六厘 松坂屋小兵衛

壹匁ニ付 四分五厘

鍋屋平右衛門

一鋪延

一筆	卷對二付 四分九厘五毛	同人	一琉球表	同	卷如七分三厘	同人
一墨	卷挺二付 七分四厘	同人	一算盤	但梅玉廿七檜木丸縁	卷盤二付 五厘五分三厘	同人
一摺繩	百尋二付 九分九厘	同人	一硯箱	但桐板春慶塗長九寸 但横六寸かぶせ蓋	卷ソニ付 卷如四分五厘	同人
一柄杓	卷本二付 三分八厘	同人	一硯石	但長四寸五分横式寸	卷ソニ付 六分六厘	同人
一中程村紙	但卷帖式拾五枚ツ、 拾帖二付 拾四厘八分八厘伊勢屋藤兵衛	同人	一上戸	同	卷ソニ付 卷如九分八厘	右同人
一下程村紙	同断 七厘八分八厘	同人	一箕	同	卷ソニ付 卷如四分四厘	右同人
一中広紙	但式拾五枚卷帖 拾帖卷二付 八厘四分八厘	同人	一大箬	但口差渡卷尺式寸五分 但深卷尺四寸五分	同 卷如四厘	右同人
一端不切紙	但卷帖四拾八枚 十帖卷束二付 八厘八厘	同人	一中箬	但口差渡卷尺式寸五分 但深五寸五分	同 八分六厘	右同人
一中西之門	但卷帖二付四拾枚 同断 拾五厘八厘	同人	一糸通	同	武知卷分六厘 越後屋金右衛門	同
一水戸半切	百枚二付 卷如四分八厘	同人	一糸小米通	同	武知三分四厘 右同人	同
一次蠟燭	拾挺二付 七分式厘八毛	同人	一竹通	同	六分卷り 鍋屋平左衛門	同
一長持	卷如二付 六拾式厘九分	鍋屋平左衛門	一芋	同	百目二付 越後屋金右衛門	同
一生懸蠟燭	但卷箱百挺高積正味八百目 拾式厘三厘 越後屋金右衛門	越後屋金右衛門	一右網	同	卷挺二付 拾七厘九分五厘右同人	同
一暈縁付刺手間	卷型二付 九分六厘	暈屋喜兵衛	一大万石通	同	拾七厘九分五厘右同人	同
一同無縁同	同 五分	同人	一小万石通	同	卷枚二付 拾卷如四分五厘右同人	同
一青模合羽	但式尺七寸六分 但袖下卷尺四寸 卷二付 六厘	文字屋孫七	一小万石通網	同	八厘九分三厘 右同人	同
一赤合羽	但右同断 卷二付 五厘卷分	同人	一水門引繩	同	八厘卷把二付 四厘九分三厘	越後屋金右衛門
一炭三貫目入	卷枚二付 武知卷厘	鍋屋平左衛門	一細引	同	卷如卷分九厘	鍋屋平左衛門
一近江表						

一 細芋縄	拾尋ニ付 三分七厘	右同人	一 銅皿	但木燭台共	卷ツニ付 卷八分六厘	右同人
一 太芋縄	同 六分四厘	右同人	一 美濃紙		卷拾ニ付 卷八分五厘八毛	伊勢屋藤兵衛
一 芋縄紺染代	百目ニ付 卷八分五厘	右同人	一 日光盆塗直し		卷拾ニ付 卷八分三厘	鍋屋平左衛門
一 株欄簾	卷本ニ付 七分九厘	右同人	一 生駄		卷升ニ付 六分六厘	越後屋金右衛門
一 竹簾	同 式分貳厘	越後屋金右衛門	一 荏油		卷合ニ付 六分六厘	鍋屋平左衛門
一 みこ簾	拾本ニ付 式分壹分	右同人	一 布巾切		卷尺ニ付 三分五厘	右同人
一 草簾	同 七分三厘	鍋屋平左衛門	一 唐蓆		百目ニ付 九分	右同人
一 大なこ竹	同 卷八分七厘三厘	右同人	一 附木		拾把ニ付 卷八分八厘	右同人
一 疊床々通	卷疊ニ付 三分四厘	疊屋喜兵衛	一 大筭笠	但笠当紐共	卷疊ニ付 四分四厘	越後屋金右衛門
一 薄縁表	卷枚ニ付 四分五厘	鍋屋平左衛門	一 小筭笠	但同断	同 五分九厘	右同人
一 伝馬船幟	卷下ニ付 三分九厘	越後屋金右衛門	一 羽二重切		卷尺ニ付 卷八分六厘五厘	鍋屋平左衛門
一 黒塗盆	卷枚ニ付 式分壹分八厘	鍋屋平左衛門	一 駒頭	大目小米	拾挺ニ付 九分五厘	右同人
一 手形簡	卷ツニ付 五分壹分四厘	右同人	一 鉢		拾挺ニ付 三分九厘五厘	右同人
但桐板春夏毫尺三寸式分巾三寸三分かふせ蓋			一 反古团扇		拾本ニ付 七分	右同人
一 朱墨	卷挺ニ付 六分九厘	右同人	一 上茶碗		卷ツニ付 四分五厘	右同人
一 光明丹	卷両目ニ付 式分五厘	越後屋金右衛門	一 次茶碗		同 式分貳厘	右同人
一 握り墨	百目ニ付 六分五厘	右同人	一 大黒傘		卷本ニ付 式分貳分	越後屋金右衛門
一 革鍵袋	卷ツニ付 三分七厘七厘	鍋屋平左衛門	一 火入团灰		拾ニ付 九分三厘	右同人
一 鎌柄共	卷挺ニ付 式分貳分五厘	越後屋金右衛門	一 鯨弓張提灯		卷挺ニ付 三分五厘三厘	右同人
一 煙	式分四厘	右同人	一 竹弓提灯		同 式分壹分五厘	伏見屋善次郎

- 一 右張替 同 壹匁三分五厘 右同人
- 一 船印提灯 同 貳匁三分三厘 右同人
- 一 一同張替 同 壹匁三分三厘 右同人
- 一 一同張替 同 四匁七分五厘 右同人
- 一 右張替 同 貳匁三分五厘 右同人
- 一 日光盘 壹匁二分 鍋屋平左衛門
- 一 中箱提灯 壹匁五分八厘 相模屋喜兵衛
- 一 一同張替 四匁一分 右同人
- 一 一同張替 六分八厘 右同人

68

御普請方諸職人諸式請負人名前

- 一 大工方木挽方 浅草四伴町 大垣屋左右衛門
- 一 大工方船大工 同花川戸 大垣屋安兵衛
- 一 左官方 同平右衛門町 相馬屋小兵衛
- 一 一家根方 中橋南枝町壹丁目 吉田屋喜平次
- 一 一瓦方 浅草堀前 瓦屋十兵衛
- 一 一人足方 同 堺屋又兵衛
- 一 一桶方 同 市兵衛
- 一 一鉄物類 同三間町 田中屋善兵衛
- 一 一隅田川土 同平右衛門町 仲屋喜兵衛
- 一 一埃浚 小宮五反野村 仲屋清右衛門

69

御札申上候式

- 一手代之内々組頭被 仰付候節
- 一手代明々跡江御抱入被 仰付候節
- 一見習之内々助手代被 仰付候節
- 一御譜代手代跡目被 仰付如父時之被仰渡候節
- 一手代御門番屋敷預相 所見立候様被仰渡候節并所見立申上被下候節
- 一御蔵番御譜代并御抱入被 仰付候節
- 一御門番御抱入被 仰付候節并頭取被 仰付候節
- 一小揚御抱入
- 一手代組頭并平手代御役出被 仰付候節
- 右ヶ条之分其座ニ而御札申上候、自分共御礼廻リハなし、右之内屋敷願ハ自分共御礼廻リいたし候処、寛政五丑年五月十八日相止メ申候
- 一小揚老衰御褒美被下候節斗リ自分共御勝手方御勘定奉行江御礼参候事

支配向家督并御抱入之儀

一御譜代之支配向小普請入家督等被仰付候節ハ、右枠か又は病氣等ニ而名代之者召連レ、御殿江罷出御席下之為招奉行衆仰渡承リ、右支配之者江直ニ申渡小普請組江引渡申候、尤明細書認為持召連申候、尤同役御礼廻し等無之候、当人御蔵番ハ御礼廻リ奉行衆江参不申手代は相廻リ申候
右は寛政元酉年十二月御蔵番菊地又三郎死去枠缺太郎江家督被

下候節之先格

一右之外支配向之義ニ付御同役方御礼廻りは無之候、差扣等御免又ハ其儀ニ不及、式ハ俸見習相動居候、如父時之御蔵番又ハ御門番相動候様并手代遠国御用被、仰付候節も御同役方ハ御礼廻り及不申候、二井田忠吉・三浦千蔵大坂御蔵御取_レ出役被、仰付候節御礼廻り之儀先格相尋候得共、例無之当人ハ奉行衆吟味役不殘 相廻り候事

70

支配向定人数御給金御扶持方
御給金拾両三人扶持宛

御給手代
御給手代
定人数五拾四人

内

組頭七人

役金五両ツ、

懸扶持四人扶持宛

懸役手代貳拾七人

懸扶持三人扶持ツ、

平手代貳拾人

出扶持老人扶持ツ、

右何も動日数ヲ以相渡候事

三百五拾四日皆勤之積

三五俵ニ直し
一四拾九石五斗六升

組頭
七人分

此俵百四拾毫俵貳斗壹升

同断
一貳拾石六斗貳升

懸役
貳拾七人分

浅草米蔵について (大野)

此俵五拾八俵三斗貳升

同断
一拾七石八斗

平手代
貳拾八人分

此俵五拾俵三斗

五人扶持ツ、

助手代定人数
貳拾老人

外出扶持五合ツ、

三百五拾四日皆勤之積

三五俵直し
一拾石六斗貳升

貳拾老人分

此俵三拾俵叁斗貳升

高拾五俵

御門番
定人数拾五人

老人扶持

内三人頭取老人扶持ツ、見習貳人扶持ツ、

右之外

雑用金五両ツ、拾五人分

七拾五両

朝夕夜食扶持

七合五勺ツ、

九人之分

右老兩ニ而平均三五ニ而四拾俵三斗壹升程ニ当ル

高拾俵

御蔵番
定人数三拾人

老人扶持ツ、

但高扶持共高下有之

内三人肝煎老人扶持ツ、四人本所御蔵住居

外金四両ツ、三拾人分 百貳拾兩

水門八ヶ所昼八人夜拾六人

御金番老人 老人分一日七合五勺ツ、

昼夜貳拾伍人分

卷ヶ年大小半分之積

此石六拾六石三斗七升五合

御普請方懸老人半扶持ニ而老人

此石貳石六斗五升五合

本所受取同所住居四人ニ而老人五合ツ、

此石拾石六斗貳升

右卷両三三二而

三拾六俵貳斗卷升ニ当ル

71

小揚定人数貳百四拾四人

高五両貳人扶持宛

小揚頭拾八人

高三両老人半扶持

杖突貳拾七人

平小揚百九拾九人

諸掛り

一茶番八人

一日老人

七合五勺宛

但出日之積ニ而老人分御切米御扶持共ニ而
但三百五十四日積

三両ニ五石三斗卷升

一舟乗七人

一日老人

七合五勺宛

但十月々三月迄ハ八合七勺五オツ、右同断
但皆勤之積ニ而

三両ニ五石七斗三升卷合貳勺五オ

一印肉煉老人

一日五合宛

但是は三百五十五日之積

但右同断
但三両ニ五石貳斗

一紙細工四人

一日老人
五合宛

但是三百四十一日ニ積
但右同断

三両ニ四石三斗六升

一湯沸所

頭老人杖突老人
平貳人

但右同断

頭ハ五両ニ四石四斗貳升五合
杖突ハ三両ニ右同断

一御普請方杖突老人

平ハ三両ニ三石五斗四升
但右同断

三両ニ六石貳斗貳合五勺

一御金番所

六ヶ月ハ 九人内

頭老人杖突貳人
平六人

六ヶ月 五人内

頭老人杖突老人
平三人

但是は三石五斗五升を惣懸ニ而取候事故定なし

一御膳米懸

頭貳人杖突貳人
平(ママ)

一土臼作り老人

一日五合

但三両ニ四石四斗三升

一繩ない老人

一日五合

但右同断

同
一茶番俵拵之者

一日老人五合

但三百五十四日皆勤之積三両ニ四石四斗貳升五合

一植物掛り四人

頭老人七合五勺ツ、
平三人五合ツ、

但頭ハ五兩六石壹斗九升五合
但平ハ三兩四石四斗貳升五合

但納弘ニ出候御扶持ハ此外也

一 溢米懸リ六人

頭三人 一日五合
杖突三人

但頭五兩ニ五石四升
杖突三兩ニ同断

一 御役所用番

星夜八人五合宛ツ、
星七人貳合五勺ツ、

此石貳拾石四斗壹升貳合五勺

但是は惣人数廻リニ而此石取り候間
但老人分積出来兼候

頭杖突平小揚とも

一 平小揚納弘高惣人数割大凡

納弘高

百十八万五千貳百十八石余江見而米百五十石貳斗八升

貳合五勺

寛政六亥年三月頭突平納弘江出候分貳百三拾四人壹人六斗六升

三合三勺

此石日数ニ見而二百六拾五日程

小揚頭壹人分取米

但御扶持御給金納弘
出扶持ニ而

金五兩四石貳斗三合六勺

杖突壹人分取米

但右同断

金三兩四石貳斗三合六勺

小揚壹人分取米

但右同断

金三兩三石三斗壹升八合六勺

此外用番御金番御用使御金請取浜御蔵草取而御蔵草取定浚懸リ

浅草米蔵について (大野)

等老人割大凡出来兼候

72

手代懸リ取扱之覚

御蔵借

諸国御廻米水揚御蔵借、三季御切米月次御扶持方日、渡方、米御蔵之有高書出し、御蔵庭相場書上并町、米相場替リ候節右上浅草本所御米改受米取扱御買上、太餅米大豆壹ヶ年御入用高取調、其外年中御米積リ、三季御切米之節渡方米取御米位付書之取扱

書上掛

日、納弘石数同出米欠米取調置、五日目ニ書上壹ヶ月限御勘定仕上、諸向々出候手形改、定印渡之分ハ定印小札取調置御勘定所江差出、諸国御廻米百姓引取米御水門切手改、夫食返納米取扱、月次御役扶持手形其外都而御勘定所御御裏判ニ而相渡リ候手形取扱

小買物掛

諸御買上小買物諸紙遣方、蠟燭湯炭其外遣方改、日、納弘運作俵出役之小揚頭杖突平小揚人数割、小揚之者不足之節ハ人足割等吟味差略いたし小揚病氣改、入堀定浚取扱、月次御入用仕上并小揚御手当毎月渡方取扱

御普請方掛

浅草本所御蔵、并御役宅向小揚御長屋御蔵番御長屋御修復、諸職人足御材木釘鉄物石灰御買上物取扱、御材木受取之節右御材

木蔵江出役、御修復御蔵仕様目論見、空地植付物月次御入用仕立入堀定浚取扱

御膳米掛

御膳扱挽立米撰方一件并御三卿様淑姫君様・貞章院殿御廻扱挽立方

御勘定懸

年々納払御勘定仕上、納庭帳御代官御預所姓名年分ヶ国附俵入共手形押切帳読合算入改、納払番附老ヶ年納払惣石高突合せ、日々定メ御扶持方十二ヶ月分手形老入別拾貳枚ヲ合候上惣渡高合せ、御蔵前年々残り米其年納払老戸前限石高并出目欠米差引惣渡高一口数突合、三季御切米定御扶持方并其外諸手形石数仕分ヶ御勘定仕組并猿楽配当米代金銀御勘定仕上取扱

御廻米掛

諸国御廻米着船水揚濟候而水揚廻之節立合、沢手米之内干立御蔵納ニ可相成分為撰分改并内拵出来次第升目内改、定法ハ切石相立候得は拵直シ申付、其外御廻米之義一式取扱

手本米掛

諸国御廻米御代官御預所役人ハ差出候手本米并御蔵出米町米御勘定所御断持手本米御評議之趣帳面ニ記置、善惡之義御代官御預所役人江申渡等取扱

手形掛

御代官御預所日々納米石数四半差出有之候分老ヶ月限四半老枚ニ引替置、皆濟之節御連印納手形老枚銘、江相渡、正月ハ十二

月迄納高石数御代官御預所役人ハ突合せ書付為差出、老ヶ年納高石数取調、其外年々猿楽配当米代金上納取扱

73

御切米渡方手続仕法 唱方凡例

一五段之事

右は勤仕百俵以下同百俵以上不動百俵以下同百俵以上御役料、右五段と唱書面之順ニ相渡候事

一條目之事

右は手形毎算当り無之其儘是を用候、為其余之渡方俵数を謀譬ハ老俵ハ何千俵迄悉米金品之渡方仕立置、手形俵数ニ合を用之、是を條目ト唱候事

一玉之事

右は札差共方ニ而手形三枚ニ玉老ツ之積受取、人名前半紙四ツ切程之紙江三人立ニ認、尤札差名前書添是を玉と唱、且此玉を開き候上ハ差札と唱候事

但、此差札ニ受取方之断書付也

一玉柄杓之事

右は曲物ニ而柄を附、其蓋江玉老ツ宛可出程之穴を明ヶ有之、是を玉柄杓ト唱、玉場初日札差共差出候玉不残右玉柄杓式本江入置振出ス、是を玉落と唱、当日玉場相濟候得は此柄杓之穴を緘封印附置候事

但、受取方遲速之勝手都而不正之謂無之為ニ此仕法相立候事

一 鑑札之事

右は木札ニ而耆枚三枚札兩様御役所焼印居江調有之、玉場ニ而玉落之手形取上、其品此之鑑札ヲ以受取へき為渡置キ、米金渡候節此鑑札取上ケ其品相渡候事

但、受取渡之手続ニ不洩為之仕法也

一 裏書之事

右は玉場ニ而取上ケ候手形裏江御金品、渡方金石記之

一 判帳之事

右認方手形面俵数名前并金品、渡リ方悉相認候事

但、御米渡之節札差とも方江相渡候ニ付、名前相記し受取印形取之候故是ヲ判帳と唱候

一 庭帳之事

右認方手形俵数名前米渡石数のミ認候事

但、渡し米御庭庭ニ而廻し相立、此帳面を以割渡候ニ付庭帳と唱候事

一 割札之事

右ハ半紙四ツ切ニ而夫を裁懸ニいたし、御役所判割判ニ押之、御切米受取人名前玉場ニ而双方江認、御米渡之節米之銘俵数端米并俵廻し共巨細ニ認、片方ハ俵数斗認候方ハ御庭庭ニ而庭帳俵数と読合取上之御米を相渡、是を割札ト唱候

但、悉認候片破ハ請取主江可遣為其札差江相渡

一 角判之事

右は玉場ニ而御蔵奉行落玉之差札と手形名前読合、手形之角

浅草米蔵について (大野)

と帳面江押為致、一番手二番手手形数、員数江調印致置、是を角判帳ト唱候事

一 玉組帳之事

右は手形三枚玉耆ツ宛之差札名前認、札差耆人限俵数札数玉数、名前記し、惣札差分綴合惣、致、行事共玉入前日御役所江差出ス、是を玉組帳と唱候事

但、玉入惣石高此帳ニ而留置玉場之員数差引等ニ用之

一 玉場帳之事

右は玉場ニ而落玉之差札名前此帳江留置、是を玉場帳と唱候

但、日、落玉名前後日見合等之為留置之

一 御金扣并御金庭帳之事

右は御金渡当日札差とも耆人限落玉之手形数耆人限御金請取高内割等迄悉認之、之書付を銘、差出ス、是を御金扣と唱

但、右之扣不残御役所江取上改算入致、惣渡高、御役所

元取調之有候判帳を以金ニ突合耆冊ニ綴、是を御金庭帳

と唱、御金渡場ニ而此庭帳ヲ以札差耆人限之、高ニ而御

金相渡候事

一 釣圖并御蔵圖之事

右は御切米渡前日、右渡方国柄之御米取調二手渡之積竹圖二本江御蔵、認圖筒ニ入、手扣帳添猶又圖箱江入月番御蔵奉行封印附置、是を釣圖ト唱、且翌朝相渡候節御役所庭江札差行事呼出、出役御蔵奉行釣圖箱封印相渡、一番手二番手御蔵為

相極候、是を御蔵圖と唱候事

但、渡方御米之善悪等都而自由ならざる為ニ此仕法相立候事

一 入日記之事

右は御金元払差引認候、是を入日記と唱候事

一 五段渡高帳之事

右は米金渡高五段廉と日々張上留置之

一 五段廉と渡切之時々米金之員數御届書付差出、猶五段惣渡切

御届御勘定所差出候事

御切米渡方手続

御張紙出

一 書替奉行の御勘定所江差出候其年之御切米五段廉々凡積石數

書付書替奉行の取之、御張紙分合、猶直段ヲ以五段廉々積リ

立、玉場一日二手之積五段日割并惣日數定置候事

一 御切米金御金藏の請取方日割御勘定所江差出候事

一 御張紙写并御金渡方割合且俵數少之分合算当難定分割合相定

書付是を添張紙と唱、右同様御蔵庭江張置候事

一 條目仕立候事

一 御切米一手之員數玉場前日其場之柱江張置候事

明ヶ六時玉場出役

御蔵奉行

玉數帳扣之其數見届、落玉之差札名前手形江積合角判帳江押切為致候事

手形取役

御蔵手代

玉組帳ニ而札差銘々呼出、玉數揃江交合セ玉柄杓二本江入蓋をへ振分を落玉之順ニ手形取上鑑札相渡し條目ニ而読立之、諸帳為認柱江張置候石數見合、宍手之員數相極候事

御蔵手代

手形裏書致候事

同断

同断

同断

判帳認之

庭帳認之

割札認之

以上御蔵手代五人ツ、出役いたし候事、御蔵番式人

札差共の差出候玉數改請取之玉柄杓ニ入并小揚頭の差札請取

玉場帳江名前書留、其上差札ハ札差共江相渡ス

小揚頭式人

御蔵番同玉數取調并落玉を開札差名前呼出し差札御蔵番江相

渡ス

平小揚頭人

玉柄杓持出振落ス

札差行事式人宛

惣札差共差配致候為ニ玉場矢来内江為相詰候

惣札差とも

玉場矢来外ニ並居玉落之差札受取其名前之手形江挾之手形取役御蔵手代江差出ス

右玉場相済跡改算入之事

玉場出役

御蔵手代一同

判帳庭帳改算入小以金小以米品々札数等迄夫々相認候

御蔵手代組頭

手形改之俵数寄を石高判帳小以米等突合いたす

改御蔵手代

右改相済候手形御金渡高品々分合手形面とも改判帳ト読合相済、裏書之金高改之可受取旨ニ而此手形札差共江相返し、鑑札取上之

但、取上候鑑札ハ御金渡し出役之手代江相渡ス

・同日御金渡之事

判帳庭帳鑑札等請取札差とも差出候御金扣改算入御金庭帳取調候事

御金場出役

御蔵奉行

手形扣之判帳ト読合手形裏書替奉行判合致、其上御金庭帳を以札差共銘々江御金相渡ス

手形取

御蔵手代

手形取上鑑札相渡并御金算江相渡ス

但、御米未相渡此鑑札ニ而為可受取渡置

御蔵手代

判帳面読之

右同断

庭帳ニ而札差共呼出ス

浅草米蔵について (大野)

小揚杖突巻人

手形鑑札請取渡し取次致ス

札差行事式人

惣札差共指配致候為ニ為相詰候

惣札差共

御金渡場失来内江呼入木戸へ置御金渡切相違無之候得は木戸明ケ出ス、右御金渡相済跡改算入之事

御蔵奉行

判帳算入手形ニ而扣之小以金江調印致庭帳算入判帳ニ而扣之小以米江調印致ス

算入

御蔵手代

判帳寄立之

庭帳右同断

御蔵手代

判帳読之

庭帳同断

手形袋面判帳小以之通認之調印致候事

庭帳ハ箱江入封印附置候事

入日記并御金有高帳算入調印致候事

御切米渡明六時出役

御蔵奉行

釣廻箱封印改之札差行事江御蔵圖為振寄番手二番手御蔵為極庭帳箱封印改之庭帳小以米手扣帳江写取、猶手形袋江読合御蔵庭江出役致御蔵封印改御米出之

但、御蔵奉行寄番手二番手圖ニ而相極候事

世話役

御蔵手代

場所心得諸事差配致ス

御蔵手代式人

庭帳俵割致俵数端米とも寄之立内割江突合書付出ス

小揚頭式人

小揚とも御米持方拼付等心附差引致ス

同杖三人

右同断

平小揚

米持御蔵出ス、石数ニ応し人数相極ル

御蔵庭張繩致シ御米持出ス

惣俵出し切廻し立方掉圖入当候亭掉江拼圖を入、当候亭拼廿俵江猶又当り三俵ニ読、圖ニ入当候三俵札差行事共為立合取出し、三俵打込平均廻し勺切之積り廻立候事

但、札差行事共ニ圖為振候事

割渡之事札差共呼寄庭帳之俵数と割札俵数と読合、割札片破レ取之順ニ割渡、俵振り米疋改させ惣代行事共より書付取之事

内割

御蔵手代

御役所ニおいて判帳ニ而俵割致割札江認之、場所差越候俵数端米と突合相済、札差共呼寄割札相渡鑑札取上之

但、御米御蔵庭ニ而此割札を以為可請取遣ス

右之通渡方相済御蔵内掃除為致、戸前錠卸封印附猶繩封いた

し場所引取候事

渡米引取方之儀御役所切手を以御門水門為引取候事

御蔵庭相場書行事共より差出候事

但、御蔵庭ニ而札差其外米屋ニ而直段ニ拘り不正之筋為無之御蔵毎ニ直段書付札為建置候事

御切米渡出役

御蔵奉行

跡調御米元払出目欠差引諸帳面手扣を以改算入調印致候事

但、月番御蔵奉行改加印請之

場所出役
内割役

御蔵手代一同

諸帳面付立取調候事

一御張紙渡方日数之内玉場相済後之渡之分とも渡高書付御勘定所江差出ス事

但、御切米渡方之義御張紙五段廉、日割之通書替奉行取調有之分、全其季之渡方初日玉入規定之通取扱相渡候分、全其季之渡方ニ而右玉場相済御張紙日数之内ニ而渡シ有之分ハ米金ニ而相渡シ候得共、畢竟不時渡之姿ニ相成玉入等も無之扱方品替候、依之前書凡例之末ニ認置候玉入之分渡切、御届之方全其季之御切米渡切前ニ之仕法ニ候事

74 納米一式

一御貢米

千俵ニ付 水揚入用

根太木持運苦菰茸方水揚拵方納之節、苦菰取片附人足賃とも

但中俵 銀五拾目宛

但大俵ハ壹俵ニ付壹厘増 銀四拾五匁宛

一千俵ニ付苦菰入用

中俵小俵壹俵ニ付壹枚ツ、之積ヲ以損料

但銀拾匁宛

一千俵ニ付拵拵拵出し入用

拵込人足賃

但中小俵共銀貳拾目宛

拵出し人足賃

但中小俵共銀貳拾目宛

大俵前ニ同

但、拵込拵出しとも御蔵三戸前以上江運候節ハ別段

運賃相懸申候

一米番人之義俵数多少ニ不拘昼夜壹ヶ所ニ而賃錢壹人分五百文

宛

但壹泊分如右

一御米泊ニ相成候節口懸細三百六拾俵ニ壹張之積リヲ以千俵ハ

此細二張七分八厘、損料壹張ニ付壹匁二分四厘宛

千俵ニ付此入用 但銀三匁四分四厘七毛宛

但中小俵共懸細入用同断

一千俵ニ付根太木積

浅草米蔵について (大野)

七拾五本程宛

右入用御尋ニ付夫々請負人共相糺候処前書之通御座候

十一月 納方 会所

御廻米方

御役所

右は御廻米懸尾貫十三郎を以為相糺候処納方右書面差出申候ニ付写置

75 五分一廻し仕法

一惣俵江棹圖拵圖を入当り候拵三十六俵貫目懸致候事

但五分一算当

譬は 四拾五人

口々目方

二拾貫四百目 七俵

此五分一壹俵廻し

二拾貫貳百目 拾壹俵

同断二俵廻し

二拾貫目 拾俵

同断貳俵廻し

拾九貫八百目 六俵

同断壹俵廻し

七俵

何も目方口々圖ニ而取出し候事

右七俵を壹俵ツ、何斗何升迄斗立合々下ハ次江送惣斗切之上
此分七俵江割入候事

但立廻し才ハ捨つ

譬ハ右七俵之斗立

惣石高

三石四斗六升六合

此平均壹俵ニ付

四斗九升五合壹勺入ニ成ル、外四才ハ捨つ

76

御蔵小買物御定金之覺

一明和七寅年迄ハ

金七百五拾兩

一同八卯年々

金四百五拾兩

一文化九申年々

金三百兩

一同年十二割成

金貳百五拾兩余

一同十四丑年

金貳百七拾六兩

内貳拾三兩余元ニ復し候分

一文政元寅年々御儉約ニ付

以上

77

當時御蔵有錢之覺

百六拾六番ニ入
一文錢三千八拾五貫三百三拾貳文

但九六錢ニ而
拾貫文詰

此金四百五拾兩余

但六貫八百文
相場

是は寛政三亥年長谷川平蔵懸ニ而御買上納相成候分
同斷
一平白錢三千百五拾八貫五百四拾文

但九六錢
拾貫文詰
但六貫八百文
相場

此金四百六拾兩余

是は寛政三年右同斷

一真鍮錢は寛政三年長谷川平蔵懸リニ而御買上、同四子年大貫
次右衛門懸リ、過料錢同八辰年々浦賀奉行右錢納、尤右錢之
義ハ文化元子年々代金納ニ相成、右三口納之真鍮錢諸向渡方
ニ相成、當時御蔵錢無之候

右渡方は兩國橋懸替先年粗挽入用御能御入用窮民御救聞
東川々御普請御入用其外渡方ニ成ル

(欄外)

寛三年刁御上落
御扶持方ト同シ

78

御上洛御扶持方之覺

七拾俵々

五人扶持

九拾俵迄

七人扶持

百石

但百四拾九石迄ハ
百石同前

百五拾石

拾人

貳百石

拾人

貳百五拾石

拾壹人

三百石

拾貳人

三百五拾石

拾三人

四百石

拾四人

四百五拾石	拾五人	
五百石	拾六人	
五百五拾石	拾七人	
六百石	拾六人	
六百五拾石	拾九人	
七百石	貳拾人	
七百五拾石	貳拾壹人	
八百石	貳拾貳人	但八百九拾九石迄
九百石	貳拾三人	但八百石同前
千石	貳拾四人	但是六百石壹人増九百九拾石迄
千百石	貳拾五人	
千貳百石	貳拾六人	
千三百石	貳拾七人	
千四百石	貳拾八人	
千五百石	貳拾九人	
千六百石	三十人	
千七百石	三十壹人	
千八百石	三十貳人	
千九百石	三十三人	
貳千石	三十肆人	
貳千百石	三十五人	
貳千貳百石	三十六人	
貳千三百石	三十七人	

貳千四百石	三十拾八人
貳千五百石	三十拾九人
貳千六百石	四十人
貳千七百石	四十壹人
貳千八百石	四十貳人
貳千九百石	四十三人
三千石	四十拾五人是六百石壹人半増
三千百石	四十拾六人半
三千貳百石	四十拾八人
三千三百石	四十拾九人半
三千四百石	五十拾壹人
三千五百石	五十拾貳人半
三千六百石	五十拾四人
三千七百石	五十拾五人半
三千八百石	五十拾七人
三千九百石	五十拾八人半
四千石	六十人
四千百石	六十壹人半
四千貳百石	六十三人
四千三百石	六十拾四人半
四千四百石	六十拾六人
四千五百石	六十拾七人半
四千六百石	六十拾九人

四千七百石	七拾人半	七千石	百五人
四千八百石	七拾貳人	七千百石	百六人半
四千九百石	七拾三人半	七千貳百石	百八人
五千石	七拾五人	七千三百石	百九人半
五千百石	七拾六人半	七千四百石	百拾壹人
五千貳百石	七拾八人	七千五百石	百拾貳人半
五千三百石	七拾九人半	七千六百石	百拾四人
五千四百石	八拾壹人	七千七百石	百拾五人半
五千五百石	八拾貳人半	七千八百石	百拾七人
五千六百石	八拾四人	七千九百石	百拾八人半
五千七百石	八拾五人半	八千石	百貳拾人
五千八百石	八拾七人	八千百石	百貳拾壹人半
五千九百石	八拾八人半	八千貳百石	百貳拾三人
六千石	九拾人	八千三百石	百貳拾四人半
六千百石	九拾壹人半	八千四百石	百貳拾六人
六千貳百石	九拾三人	八千五百石	百貳拾七人半
六千三百石	九拾四人半	八千六百石	百貳拾九人
六千四百石	九拾六人	八千七百石	百三拾人半
六千五百石	九拾七人半	八千八百石	百三拾貳人
六千六百石	九拾九人	八千九百石	百三拾三人半
六千七百石	百人半	九千石	百三拾五人
六千八百石	百貳人	九千百石	百三拾六人半
六千九百石	百三人半	九千貳百石	百三拾八人

九千三百石	百三拾九人半
九千四百石	百四拾壹人
九千五百石	百四拾貳人半
九千六百石	百四拾四人
九千七百石	百四拾五人半
九千八百石	百四拾七人
九千九百石	百四拾八人半
壹万石	百五拾人
是拾万石迄壹万石ニ付百五拾人増	
壹万五千石	貳百貳拾五人
貳万石	三百人
貳万五千石	三百七拾五人
三万石	四百五拾人
以上	

79 金銀目方

小判貳千兩入壹箱	七貫八百目
貳朱判五百兩入同	八貫八百目
壹朱判	同
小判壹兩	目方三匁五分
貳分判壹枚	同壹匁七分
壹分判同	同八分強シ
貳朱判同	同貳匁七分強シ

浅草米蔵について (大野)

80 三季御切米五段渡方歩合凡米積

壹朱判同	同
金貳朱壹枚	同
春夏半分米渡	
高七万三千石余	
内	
壹万六千八百石余	勤仕以下
三万八千石余	同以上
貳千八百石余	不勤以下
九千七百石余	同以上
五千七百石余	御役料
勤仕五万四千八百石余	
合 不勤壹万貳千五百石余	
同三步一米渡	
高四万八千石余	
内	
壹万五千石余	勤仕以下
貳万五千石余	同以上
千八百石余	不勤以下
六千四百石余	同以上
三千八百石余	御役料

合 勤仕三万六千石余
不勤八千四百石余

同三步二米渡

高九万六千石余

内

貳万千六百石余

五万百石余

三千七百石余

壹万貳千九百石余

七千七百石余

合 勤仕七万七千七百石余
不勤壹万六千六百石余

春夏四步三米渡

高拾壹万石余

内

貳万五千貳百石余

五万七千六百石余

四千貳百石余

壹万四千五百石余

八千五百石余

合 勤仕八万貳千八百石余
不勤壹万八千七百石余

冬御切米三步一米渡

高九万六千三百石余

内

貳万四千三百石余

五万五千五百石余

三千九百石余

壹万三千百石余

三千五百石余

合 勤仕七万五千八百石余
不勤壹万七千石余

冬四步一米渡

高七万三千五百石余

内

壹万八千石余

三万八千五百石余

三千百石余

壹万千石余

貳千九百石余

合 勤仕五万六千五百石余
不勤壹万四千百石余

冬四步三米渡

高貳拾貳万石余

内

五万四千石余

勤仕以下

同以上

不勤以下

同以上

御役料

勤仕以下

同以上

不勤以下

同以上

御役料

勤仕以下

拾壹万五千石余

同以上

九千三百石余

不勤以下

三万三千石余

同以上

八千七百石余

御役料

合 勤仕拾六万九千石余
不勤四万貳千三百石余

冬半分米渡

高拾四万六千石余

内

三万五千六百石余

勤仕以下

七万六千八百石余

同以上

六千百石

不勤以下

貳万千八百石余

同以上

五千六百石余

御役料

合 勤仕拾壹万貳千四百石余
不勤貳万七千九百石余

冬三分貳米渡

高拾九万五千石余

内

四万七千五百石余

勤仕以下

拾万貳千七百石余

同以上

八千貳百石余

不勤以下

貳万九千貳百石余

同以上

浅草米蔵について

(大野)

七千四百石余

御役料

合 勤仕拾五万貳百石余
不勤三万七千四百石余

81

壹ヶ年凡渡方

壹万五千石程

御用米

大凡月々千貳百五拾石宛

八千七百石程

一橋殿御合力米

此ハ春手形入置連々受取申候、先八百石程ツ、

五百石程

兵部御殿賄料

此ハ年々少々増減有之

三千七百石

右衛門督殿賄料

是ハ春手形入連々受取申候

三千五百石程

紀伊殿被懸米

内

千百五拾石 二月 千百五拾五石 五月渡

千百九拾石 八月

文化十四丑年々十ヶ年之間

貳千七百石程

御仏供料

内

千貳百石夏 千五百石冬

三万三百石程

御役扶持月割御合力

大凡月々貳千五百石ツ、

五千石程

女中切米

内

貳千五百石 二月渡 貳千五百石 九月渡リ

壹万五千石程

御役料

内

五千七百石程 春半分米

五千七百石程 夏同断

三千六百石程 冬三分一米

拾八万五千石程

三季御切米

内

五万五千石 春半分米

五万五千石 夏同断

七万五千石 冬三分一米

千七百石程

右近将監御当宛米

是は正月受取申候

合中上米渡之方

米貳拾七万千百石余

右之延年、中米以上納高

凡貳拾三万九千石程

差引

三万七千石程

中米以上年々大凡御不足

中次米渡之方

拾貳万七千石程

三季不勤御切米月々定御扶持方

内

八万四千石程

定御扶持

月割

七千石宛

四千三千石

内

壹万三千石 春半分米

壹万三千石 夏同断

壹万七千石 冬三分一米

壹万三千五百石程

内

四千五百石程

九千石程

御代官扶持
猿樂作事渡

中次米渡之分合

米拾四万五百石程

右之所年々中次米納高差引

七千石程

中次米余ル

惣納高合三拾八万六千五百石程

内

貳万六千石程 買納

惣渡高四拾壹万六千六百石余

大凡

一米水揚仕内拵之上御藏納迄諸入用

千俵ニ付

大俵百拾七匁六分四厘 中俵百拾貳匁六分四厘

小俵九拾五匁六分四厘

但三重皮切人足賃は相除申候

尤壹俵ニ付大中小共壹厘ツ、

右訳

根太木持運苦菰損料、同葎方水揚拵并同見直し并返納并諸

手伝懸細損料 但当日御藏納ニ相成候節ハ懸細損料相除申候

但三百六拾俵壹張之積

壹張ニ付銀壹匁二分四厘ツ、

一船沢手米切替斗立俵拵并御藏納迄諸入用

百俵ニ付

大俵 四拾八匁壹分 中小俵 四拾貳匁八分五厘

右訳

切替斗立俵拵并拵付共諸人足

大俵拾七人懸リ

中小俵拾五人懸リ

但壹人ニ付壹匁五分宛

敷薙百俵ニ付大中小俵共五拾枚懸リ損料壹枚ニ付壹厘貳毛ツ

、摺縄大俵百俵ニ付五拾五把懸中小俵五拾把懸リ、壹把ニ

付三分ツ、入俵上皮三分中皮二分ツ、合五分宛新規入俵仕

一小口受右同断

浅草米蔵について (大野)

百俵ニ付 大俵三拾六匁六分 中小俵 三拾貳匁壹分

右訳

切替斗立俵拵并拵付大俵拾七人懸リ中小俵拾五人懸リ、但壹

人ニ付壹匁五分ツ、敷薙百俵ニ付大中小俵共五拾枚懸リ、

損料壹枚ニ付一厘貳毛ツ、摺縄大俵ニ付三拾五把中小俵ニ

付三拾把懸リ、但壹把ニ付三分ツ、

但右ハ俵ハ其儘相用申候積リ

右之通ニ御座候以上

戌二月

納方会所

文政九戌年二月

御廻米内拵并切替諸入用等相糺候処右之通納方々書面差出候

写

前書之積を以百石当取糺候処左之通

百俵ニ付

大俵 九拾六匁貳分 中小俵 平均 百拾七匁三分三厘

右ハ沢手切替之方

百石ニ付 大俵七拾三匁貳分 中小俵 平均 八拾八匁壹分余

右ハ小口受之方

百石ニ付

大俵貳拾三匁五分貳厘余 中俵貳拾八匁壹分六厘余

小俵貳拾八匁九分八厘余

右ハ本俵其儘納ニ成候方

右本俵切替俵半分受之積

百石ニ付中小俵

七拾三匁分余ニ当ル

83

御廻米五畿内中国筋并西国筋船中容敷米

三斗三升入

壹俵ニ付六合式勺四才

三斗七升入

同七合

四斗入

同七合五勺六才

五斗入

同九合四勺五才

但平均壹斗ニ付壹合八勺九才ツ、

丹後 石州

四斗入

壹俵ニ付八合六勺四才

但壹斗ニ付貳合壹勺六才

岩城

同八合九勺壹才

三斗三升入

但同断貳合七勺

棚倉 村山出羽村山郡ナリ

壹俵ニ付壹升

三斗七升入

但同断貳合七勺

越後 越前

同壹升八勺

四斗入

但右同断

羽州 田河

四斗七升入

同壹升貳合九勺六才

但壹斗ニ付右同断

84

猿棄扶持
作事飯米 渡方元濟

享保十九年御蔵御定書

猿棄扶持ハ常々御扶持ス次之米并作事又扶持ハ猿棄扶持ス

又次之米可被相渡候事

御蔵最初御定法書寫

一御払米之儀巻返しニ而受米ニ相極リ候分猿棄扶持并御作事又扶持ニ可相渡員数を考殘し置、其外ニ而大更米を売払ニ可仕哉之由御勘定所江書付を以相伺、御差図次第御払ニ極申候事、其節ハ町年寄所江相触町人ニ御米為見入札申付、右入札披半候節御蔵目付衆立会奉行并目付衆加印仕置候、入札直段御勘定所江申達し御差図次第金子請取御米相渡候事

85

毎月定御扶持渡玉場石数日数左之通り

勤仕御扶持方

一日千石程宛

但五百石程ツ、二手ニ取候事

廿日〆廿四日迄日数五日ニ取候事

近来先四日ニ取申候

不勤御扶持方

大廿五日〆廿九日迄

大之月一日手形数三百八拾枚

小廿五日〆廿九日迄

ツ、

小之月一日手形数四百七拾枚

右は天明五年年ニ相極候事

ツ、

86

浅草御蔵御門外御構内新規御役宅式ケ所出来御入

用高

式軒二而

五百九拾両

内

三百九拾両

建家并井戸板塀之分

百拾両

土蔵之分

貳百五両

地方之分

六拾五両

御堀浚并柵之分

壱ケ所

本家建坪

五拾八坪七合五勺

長屋建坪

拾八坪七合五勺

土蔵

四坪

物置

貳坪

中御門外御役宅

式百八拾坪余

間口拾四間
奥行廿間

下御門外同断

式百六拾貳坪余

間口拾貳間半
奥行貳拾壹間

右文政八四年十二月取懸り、同九戌年六月出来上り
立会方兩人懸り被仰渡懸り扶持拾人扶持ツ、被下之、御用濟

浅草米蔵について (大野)

之節銀七枚ツ、被下置

但、御蔵手代懸り之もの定式を兼相願候ニ付御扶持方無
之御用濟御褒美被下之、泊相勤候ニ付御用中御手当有之

87

御廻米品川沖を浅草本所御蔵入堀迄茶船壹艘賃銀

一米六拾石積

壹艘

此賃銀拾八匁五分

但、風波有之候節ハ増加子老人ツ、乗船いたし候ニ付
此賃銀三百文ツ、右艘下浅草代地河岸一一夜泊翌日
水揚げいたし候儀ハ定賃銀見込之内ニ候得共、若差支有
之翌日水揚げ不相成延引之節ハ一泊銀七匁五分宛増銀
有之候事

右定例御廻米艘下賃銀書面之通ニ御座候事

此度品川沖沈船濡米之分品川浦川内を浅草御蔵御堀内

迄艘下賃

一茶船壹艘

但濡米百俵積之積

此賃銀貳拾三匁分式厘

但、濡米ニ付取扱手重故茶船舟頭老人ニ而ハ難取扱増
舟頭老人此賃銀四百文宛之積

右茶船夕時悪敷泊候敷又ハ浅草代地河岸ニ乗着け水揚げ引定
之外泊り相増候節ハ、一泊ニ付百貳拾五文ツ、増之積り

右之通御座候、以上

右ハ文政十亥年六月品川沖着船米大風雨ニ而沈船ニ相成濡米

之分水揚入用之儀舟方相糺候処前書之趣書付差出候事

尤定例水揚米入用も序ニ取糺候処是又前書之通差出候事

88

文政十亥年十二月調進來迄々年大凡渡方

壹万八千石程

御用米

大凡月千五百石宛

三千七百石

右衛門督殿賄料

是は春手形入置連々請取セ候

三千七百石程

民部卿殿賄料

渡方前同断

五百石程

兵部卿殿賄料

是は年々少々宛増減有之

貳千九百石程

御仏供料

千三百石程 夏

千六百石程 冬

三万三百石

御役扶持并月割御合力

大凡月貳千五百石程宛

一五千百石程

女中御切米

貳千五百石余 二月渡

貳千五百石余 九月渡

壹万六千石

御役料

六千石程 春半分米渡

六千石程 夏同断

四千石程 冬三分一米渡

拾八万五千石

三季御切米

五万五千石程 春半分米渡

五万五千石程 夏同断

七万五千石程 冬三分一米渡

三千五百石程

右近將監殿御手当米

千七百五拾石 亥年ハ春江戸渡

千七百五拾石 同年ハ大坂渡

合中上米渡之廉

中

貳拾六万八千七百石余

右之所年々中米以上納高

凡貳拾三万九千石程

差引

貳万九千七百石程

中次米渡之廉

凡渡高

拾貳万七千石程

内

八万四千石程

月割

七千石程宛

定御扶持方

三季不勤御切米月々定御扶持

四万三千石程

不勤御切米

壹万三千石程

春半分米渡

壹万三千石程

夏同断

壹万七千石程

冬三分一米渡

壹万三千五百石程

御代官扶持作事飯米猿樂扶持

内

四千五百石程

御代官扶持

九千石程

作事猿樂渡リ

中次米渡之廉

拾四万五百石程

右之處中次米年々納高

凡拾四万七千五百石程

差引

七千石程

中次米餘ル

年々納高

米三拾八万六千五百石余

内

貳万六千石程 買納之分

年々納高

凡四拾万九千貳百石程

外壹ヶ年

凡貳万石程

中次以上三而臨時渡之分

浅草米蔵について (大野)

(以下異筆)

文政十年幕府領知高

高合四百一十一万八千八十九石余

此取高四十三万四千四百九十八石余

米納高十六万六千六百六十九石余

内 金納九万八千五百二十三兩

此米二十六万七千八百二十九石

文政十丁亥年前收入高ニ比

米三十八万六千五百石

天保三年金納前收入金高ニ比シ

百六十二万二千二百一十一兩 金庫收納金高

十萬石 八人

八十萬

八萬石 六人

四十八萬

七萬石 四人

二十八萬

六萬石 六人

三十六萬

五萬石 十一人

五十五萬

三萬石 一人

三萬石

二萬 二人

四萬石

大名預

二百五十三萬

五十萬石

三百三十萬石

史料館研究紀要 第九号

高四百万石納高概算

支出概算

米百十六万石

米三十八万石

金十万両

金百六十万両

米百九十八万石

五十八万両 不足

